

忍郷友会



公益財団法人 忍郷友会 とは…

創 立

明治四年（一八七一年）の廃藩置県で東京を初め、全国に散った旧忍藩士の人たち八十余名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、親睦会として発会式が行われたのが本会の始まりで、同年十二月六日には藩主嗣子松平忠壽少尉の白露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて本会の基礎が出来、会報第一号が刊行されました。

その後地方在住の士族の他、忍郷にゆかりの一般の人たちも加わり、交流を深め会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、ふるさとの為最初は東京に遊学する忍町の学生を援助するなど、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきました。

（一般財団法人から公益財団法人へ）

財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎中央大学総長を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和十三年に文部省（現文部科学省）より「教育活動を行なう財団法人」として認可され、平成二十六年三月三十一日まで継続してまいりました。

平成二十六年四月一日には、制度改革による法改正に伴い一般財団法人からより社会的信頼・信用が高い公益財団法人への移行を申請、内閣府より厳格な審査の結果公益財団法人として認可されました。

会 員

全国的に見ても郷友会はいくつかありますが、法人格を有しているのは本会だけです。現在の会長は、（奥平）松平家十六代の松平忠昌氏です。

本会は明治、大正、昭和の大きな歴史的試練にもめげずに活動は続けられ、会員の延べ数は数千人を超えており、その方々の分野も政界、官界、軍部（戦前）、法曹界、経済界、教育界、学会、美術芸能その他多岐に亘っています。平成二十七年は創立一一〇周年、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりであります。どこにいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが忍郷友会です。現在の会員数は二百三十余名です。

目的と事業

本会の創立者の遺志を継承し、行田地方を中心に東京、神奈川など県内外の会員と関係者の支援を仰ぎながら、会員同士の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りつつ、これからの地域社会や国家の繁栄隆昌に役立つリーダーや後継者の人づくりを目指し、社会教育と学校教育の支援事業を行っていきます。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識とともに高い倫理観と品性を備えた人」であります。

（文責 渡邊 栄一）

公益財団法人

忍郷友会広報誌 第七十五号

目

次

二〇一九年に向けて……………	松平 忠昌……………	2
事務局長報告……………	矢澤 大和……………	3
平成29年度 事業報告……………		4
収支決算書・貸借対照表……………		7
忍郷友会役員名簿……………		8
平成30年度 会員名簿……………		9
平成30年度 事業行事経過メモ……………		10
知りたい！学びたい！郷土の歴史講座		
「忍歴史塾」として発足……………	遠藤 初枝……………	12
第十六回全国藩校サミット舞鶴大会報告		
……………	平井 武夫……………	14
第33回 浮き城のまち行田		
「少年の主張大会」……………	瀬山 文孝……………	17

忍郷友会会長賞作品①……………	吉野 恵南……………	17
忍郷友会会長賞作品②……………	益岡 未藍……………	18
忍郷友会会長賞作品③……………	森田 琉那……………	19
進脩塾活動について……………	田代 敬二……………	20
読書推進運動について……………	須郷 和美……………	23
「旧忍町信用組合店舗」の移築・改修・復原・活用		
……………	中島 洋一……………	24
岐阜市の2城と舞鶴市観光……………	鈴木 秀憲……………	26
川柳・俳句……………		29
御名刺掲載欄……………		31
編集後記……………	橋本 恭一……………	34

二〇一九年に向けて



公益財団法人 忍郷友会

会長 松 平 忠 昌

明治三十八年十月に創立・発足し、平成二十六年四月に公益財団法人として認可されました忍郷友会は、一四年を超える歴史を有する公益財団として日本全国でも稀有な存在であると考えます。

当会の歴史と伝統は、云うまでもなく、先輩諸氏を始めとする会員皆様の確固たる郷土愛と献身的な奉仕の精神に基づく活動の賜物であり、お陰様で我々が出来たる事業を積極的に継続出来ております。

公益事業の柱として積極的に推進・活動している「進脩塾事業」は、「公開講座」が二〇〇回を超えており、「忍歴史塾」を開催すると同時に本年も新たな企画をして「市民公開講座」を軸

とした活動に注力して参ります。

第三十四回となる「浮城のまち行田少年の主張大会」も行政への後援を認められてから二十年超の取り組みとなっており、青少年の声・発表を直に聞く事が出来る良い機会となっております。会員各位におかれても、当該事業をご理解頂き会場に足を運んで頂くなど積極的にご支援・ご参加願いたく存じます。

勿論、継続事業であります「読書推進」についても内容を充実する事を念頭に活動して参ります。

毎々申し上げております通り、当会の活動の中心は、国や地域行田の宝である青少年の教育を支援し、人材育成を目指した地道な教育支援活動であり、これ

からも上述の事業活動を継続する事は当然であります。心の柱となる教育に目を向け、心の拠り所となる郷友会とするように努力して参る所存です。

平成一九年に移転した事務局は、鈴木秀憲副会長と矢澤事務局長を中心に運営を図っておりますので、会員の皆様にもご理解と暖かいご支援・ご協力をお願い致します。公益活動と並行して、本年は会員相互の交流や親睦の機会や活動の場を増やせる様に工夫して参りたく考えておりますので、忌憚のないご意見・ご提案をお寄せ頂ければ幸いです。

国内では、安倍晋三首相の政治体制の下に諸政策が推進されている訳ですが、必ずしも明るい材料があるとは申せず、漠然とした不安を覚えますが、経済面では来年開催される東京オリンピックに向けての諸活動に期待する所であります。五月には、天皇陛下のご退位と皇太子様のご即位が行われ、元号も変わるといふ大きな変革が予定されてい

ますので、気分を刷新して諸事に取り組む事になると考えられます。

海外に目を向けてみますと、米国ではトランプ大統領の不安視される程の政権運営、英国のEU離脱後の動き、中国の軍事・経済での突出や北朝鮮問題、等々と不安材料が一杯あり、日本を取り巻く環境は一段と厳しいものがあります。この様な時にこそ足元を見詰め直しながら、自らの出来る事を着実に手掛けて行くべきと考えます。

引続き「違いの判る人間を育成する教育への支援」によって、行田から日本、世界の将来を担う人々を輩出できる様に「二燈照隅」の想いで事業を推進・継続して参りますので、皆様には更なるご理解、ご協力とご支援を頂戴致したく、宜しくお願い申し上げます。

事務局 長 報 告



事務局 長 矢 澤 大 和

財団法人忍郷友会は、法改正により、その公益性を認定され平成二十六年四月「公益財団法人忍郷友会」に移行いたしました。この認定移行に関しては、松平忠昌会長を中心に当時の執行部の方が大変なエネルギーを傾注し実現、それから早五年が経過しようとしています。この五年を経て、我々関係者もやっと「公益」という活動、運動方向が解ってきたような気がします。

「公益」に移行し重要視されるものの一つが、評議員会、理事会の議決です。議会運営についても、まだまだ十分とは言えませんが、これから松平会長指導の下、会議の公正、適正さを求めてまいりたいと思います。その効果の結果と思われる事柄が、当会主催行事の市民の参加数の増加です。

評議員会、理事会で決定したこ

とを、確りと当該委員会で検討し、実施。以前に比べ委員会の開催回数が増え、委員の皆様には負担が増していますが、その努力は数字となって実っていると思います。一昨年実施されました、内閣府の立ち入り監査の折、検査官は当会の規模にしては「事業の多さ、動員数の多さ」に驚いていましたが、この一年は、さらに大きな規模になりました。

昨年平成二十九年十月から平成三十年九月末までの一年間の本会主催事業の市民参加者の延べ概数は

進脩塾

孟子講座

朗唱まつり

子ども素読教室

東京支部素読教室

漢字検定

一〇〇名

二六〇名

四三〇名

一〇〇名

三十七名

忍歴史塾

第一回歴史講座

一四六名

第二回歴史講座

一三五名

第三回歴史講座

一二二名

読書推進実行委員会

第十五回平野啓子文化講演会

二二三名

第十六回村上淳子講演会

一〇一名

以上一六〇〇名を超える市民の皆様のご参加をいただきました。

予想以上に参加者が多く、当日の席、資料が不足し、参加された多くの方にご迷惑をおかけしてしまいました。お詫び申し上げます。

本年度の特筆すべき事業は、忍歴史塾の三回に渡る歴史講座かと思えます。三回連続で松平会長に講師をお願いし、

第二回

「忍藩松平家の歴史に学ぶ」行田市商工センター四〇一号室

第二回

「江戸時代とは」行田市教育センターみらい第一学習室

第三回

「江戸時代の教育について」行田市教育センターみらい第一学習室

松平会長には、毎回内容豊富

で素晴らしい資料の用意いただき、受講者には大好評でした。この資料は、当会ホームページにもアップしてございます。

いずれも予定定員オーバーで、参加いただいた皆様には、ご不便をおかけいたしました。

他にも読書推進実行委員会の「語り部・かたりすとの平野啓子さん」をお招きしての、第十五回記念特別講演会も大好評でした。同委員会としては、当初例年と同じ規模での想定でスタートしましたが、第十五回記念ということで、十五回目に相応しい講演会にすべく、努力いたしました。

新しい切り口の事業の忍歴史塾、読書推進実行委員会は、動員には大変な努力をされましたが、結果は数字が物語っています。

委員会事業が活発になり、動員数が増えた最大の要因は、各委員会の事業に対する熱意と断言致します。その熱意と同時に、神奈川県にお住いの松平会長の行田に來られる回数も増え、最も多い時は、一週間に四日ご来行という週もございました。改めて、会長の熱意とエネルギーに感謝を申し上げます。

平成二十九年度 事業報告

1 会 議

(1) 総 会

① 定時決算総会

(会務報告、講演会、懇親会)

日 時 平成二十九年五月二十二日(月)

参加者 五十二名

午後三時～午後七時三〇分

会 場 行田市・ベルウィアイトピア 来 賓

行田市長代理

川島 将史 様

衆議院議員

野中 厚 様

行田市議会議長

松本 安夫 様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲 様

行田ロータリークラブ会長

大野 年司 様

行田さくらロータリークラブ会長

五十幡 和彦 様

(公社)行田青年会議所理事長

佐野 友昭 様

ものづくり大学学長

赤松 明 様

埼玉浮き城プロバスケットボールクラブ会長

須郷 隆 様

(二社)漢字文化振興協会事務局長

白石 宗靖 様

行田市郷土博物館友の会会長

清水 威男 様

特別招待者

小池 ミチ子 様

講演会講師

鈴木 紀三雄 様

松平忠昌議長より平成二十八年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演

「戦国から太平の世へ」

徳川家と奥平松平家

講師 鈴木紀三雄 様 (行田市郷土博物館 副館長)

懇親会

② 定時予算総会

(会務報告・賀正会)

日 時 平成三〇年一月二十七日(土)

参加者 五十三名

午後三時～午後七時

会 場 霞会館(霞が関ビル二十四階)

来 賓

行田市長代理

川島 将史 様

衆議院議員

森田 俊和 様

衆議院議員野中厚様秘書

中里 昌弘 様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲 様

行田商工会議所会頭

小川 雅以 様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄 様

(公社) 行田青年会議所理事長

赤羽 一真 様

(公社) 行田青年会議所専務理事

小林 永典 様

行田ロータリークラブ会長

石渡 健司 様

行田さくらロータリークラブ会長

藤倉 武 様

埼玉浮き城プロバスケットボール顧問

渡邊 榮一 様

(株)埼玉新聞社代表取締役

小川 秀樹 様

ものづくり大学学長

赤松 明 様

忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖 様

講演会講師

江利川 毅 様

松平忠昌会長より平成三〇年度の事業計画及び予算について報告があった

講演 「一以て之を貫く」に学びつつ

講師 公立大学法人埼玉県立大学理事長 (当会評議員)

江利川 毅 様

少年の主張

優秀作品の発表と紹介

太田東小学校 池田 好花

中央小学校 菅原 陸玖

西小学校 向井 玄真

(2) 役員会

① 理事・監事会

日 時 平成二十九年四月二十六日(水)

午後一時三〇分～午後三時三〇分

会 場 公益財団法人忍郷友会本部 事務所

審議事項

1 平成二十八年度事業報告書 (案) について

2 平成二十八年度収支決算書 (案) について

3 定時総会・講演会・懇親会ご案内 (案) について

4 総会・講演会・懇親会 タイムテーブル (案) について

5 予算総会・講演会・懇親会ご招待者 (案) について

6 新入会員承認の件

7 理事・監事改選の件について

8 新任評議員 府川 吉延

新任評議員 川野 健人

新任評議員 須郷 隆

新任評議員 赤松 明

新任評議員 五十幡 和彦

新任評議員 佐野 友昭

新任評議員 大野 年司

新任評議員 鈴木 秀憲

新任評議員 松本 安夫

新任評議員 野中 厚

保泉 欣嗣
碓井 勝也
中川 邦明
9 進脩塾、講師謝金の件について
以上慎重に審議され、承認された

② 評議員会

日時 平成二十九年五月二十二日(月)
午後二時～午後二時五〇分
会場 ベルヴィアイトピア
審議事項

- 1 平成二十八年度事業報告書の承認を求める件について
- 2 平成二十八年度収支決算書の承認を求める件について
- 3 評議員の選任及び解任の承認を求める件について
- 4 理事・監事の任期満了につき新規選任の承認を求める件について

報告事項

新入会員承認の件について、進脩塾講師謝金の件について議決報告があった
以上慎重に審議され、承認された

③ 理事・監事会

日時 平成二十九年十月四日(水)
午後一時三〇分～午後三時三〇分
会場 公益財団法人忍郷友会本部事務所
審議事項

- 1 平成三〇年度事業計画(案)

について
平成三〇年度予算(案)につ

イ 「進脩塾」事業計画・予算(案)について

ロ 「浮き城のまち行田少年の主張大会」事業計画・

予算(案)について

ハ 「読書推進実行委員会」事業計画・予算(案)について

3 新入会員承認の件

4 平成三〇年一月二十七日(土)開催の予算総会及び賀正会承認の件

5 忍郷友会歴史研究会(仮称忍歴史塾)について

以上慎重に審議され、承認された

④ 評議員会

日時 平成二十九年十一月九日(木)
午後一時三〇分～午後三時三〇分
会場 行田市商工センター 四〇二号室
審議事項

1 平成三十年度事業計画について

2 平成三十年度予算について

イ 「進脩塾」事業計画・予算(案)について

ロ 「浮き城のまち行田少年の主張大会」事業計画・

予算(案)について
ハ 「読書推進実行委員会」

事業計画・予算(案)につ

報告事項

新入会員承認の件、平成30年度定時予算総会及び賀正会の件、忍郷友会歴史研究会(仮称忍歴史塾)の件について議決報告があった
以上慎重に審議され、承認された

⑤ 臨時理事会

日時 平成二十九年十二月二十二日(金)
午前十一時～午後十二時三〇分
会場 公益財団法人忍郷友会本部事務所
審議事項

1 謝金規定(案) 承認の件について

2 遊休資産への対処について
以上慎重に審議され、承認された

2 教育奨励事業

(1) 進脩塾活動

① 公開講座

藩校教育を現代に活かす

「朗唱まつり」

日時 平成三〇年二月十日(土)
午後二時～午後四時三〇分
会場 行田市教育文化センター「みらい」

素読教室風景 老本幼稚園々児二十九名

「論語・漢詩」素読 忍藩子ども塾々生 二十四名
「三字経」素読 埼玉小学校児童一〇〇名

「公、房総の戌役の命を蒙り、之を賦して窃かに其の挙を奉賀す」素読 埼玉中学校生徒 岩下有希
「四時読書楽」素読 進脩塾々生(一般成人市民) 十五名
おもてなし甲冑隊演舞・武蔵あばれ太鼓演技
受講者 二六〇名

② 定例講座

四月 「三味線と都々逸を楽しむ会」井上啓子 先生

五月 「般若心経講座」福島伸悦 先生

九月 「孟子」荒井 桂 先生

十月 「孟子」荒井 桂 先生

十一月 「孟子」荒井 桂 先生

三月 「孟子」荒井 桂 先生

内 容 進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

*行田ケーブルテレビにて放映

③ 忍藩子ども塾素読教室の開催

日時 毎月第一、第二、第三土曜日

午前九時～午前十二時
場 所 行田市郷土博物館講座室

受講者 行田市内在住の小学生五〇名

指導者 田代敬二・奥田七寿・川田隆生・相馬詩子

内 容 論語・漢詩の素読学習

④ 東京支部素読教室の開催

日 時 毎月二回土曜日

午後二時三〇分～午後三

時三〇分

場 所 天眼寺（東京上野）

受講者 天眼寺関係者 一〇名

指導者 川田隆生

内 容 論語・漢詩の素読教室

⑤ 漢文検定試験の実施

日 時 第一回 平成二十九年

十一月十八日(土)

第二回 平成三〇年三月

十七日(土)

午前九時三〇分～午前

十二時

場 所 行田市郷土博物館講座室

受験者 第一回 二十三名（寺子

屋編・藩校編）

第二回 十四名（寺子屋

編・藩校編）

⑥ 出前出張素読教室

対 象 行田市立埼玉小学校全学年

日 時 毎週水曜日

午前八時一〇分～午前八

時三〇分

指導者 田代敬二、奥田七寿・川

田隆生

内 容 論語・漢詩の学習

⑦ 出前出張素読教室

日 時 平成三〇年一月・二月

（八回）

午後二時十五分～午後二

時四十五分

場 所 老本幼稚園

指導者 田代敬二・奥田七寿

内 容 論語・漢詩（朗唱まつり

発表向）

(2) 「第三十二回・浮き城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日 時 平成二十九年十一月十一日(土)

午後一時十五分～午後四

時三〇分

場 所 行田教育文化センター

「みらい」文化ホール

応募者 市内小・中学校児童生徒

九三九名

発表者 二十四名 松平忠昌会長

より記念品を贈呈した

(3) 読書推進実行委員会

読書推進実行委員会第十五回記念

講演会

「語りと朗読と読み聞かせ」

平野啓子先生

日 時 平成三〇年三月三日(土)

午後一時三十分～午後四時

場 所 ベルヴィアイトピア

受講者 二一三名

(4) 忍歴史塾

郷土の歴史講座 忍藩松平家の歴史

史から江戸時代を検証する

「第一回 忍藩松平家の歴史を学

ぶ」松平忠昌会長

日 時 平成三〇年三月二十四日(土)

場 所 行田市商工センター四〇

一号室

受講者 一四六名

3 会報74号の発行

会報七十四号を平成三〇年一月一

日に発行

全会員、市内各小、中、高校、幼稚園、
保育園及び素読教室関係者に配布

4 第十五回全国藩校サミット金沢大会への参加

日 時 平成二十九年九月三〇日

(土)十月一日(日)

会 場 石川県立音楽堂・邦楽ホ

ール

参加者 松平忠昌会長以下二十五名

5 慶 弔

① 叙勲・褒章受章

江利川 毅 様

平成二十九年四月二十九日

瑞宝大綬章を受章

② お悔やみ申し上げます

野口 昭夫 様

(平成二十九年六月三日)逝去

根岸 仁司 様

(平成二十九年十一月十九日)逝去

6 会員増強対策

新入会者紹介（入会順）

紹介者（鈴木秀憲）

・鈴木 佳代子 様

鴻巣市赤見台

紹介者（田代敬二）

・伊東 大輔 様

文京区小日向

BNYメロン・アセット・マ

ネジメント・ジャパン(株)

紹介者（鈴木秀憲）

・久保田 春明 様

行田市須加

埼玉県自動車整備振興会理事

紹介者（世川祐多）

・松野 史郎 様

東京都港区

(株)エム・テック専務取締役

紹介者（田代克太郎）

・関田 悦男 様

行田市長野

7 総会員数

二二六名

(平成三〇年三月三十一日現在)

法人名：公益財団法人 忍郷友会 事業名：事業全体 自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日 決算

収支計算書 (単位：円) 支出の部の内訳書 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入			
基本財産配当金収入	100,000	123,794	23,794
② 会費収入			
正会員会費収入	2,200,000	2,170,000	△ 30,000
③ 事業収入			
総会事業収入	1,000,000	893,000	△ 107,000
進脩塾事業収入	718,000	628,000	△ 90,000
藩校サミット事業収入	0	871,980	871,980
④ 寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0
⑤ 雑収入	300,000	387,282	87,282
⑥ 他会計からの繰入金収入			
積立基金取崩収入	0	0	0
事業活動収入計	5,318,000	6,074,056	756,056
2. 経常費用			
① 事業費			
総会事業支出	1,100,000	1,005,378	△ 94,622
広報発行事業支出	250,000	274,732	24,732
進脩塾事業支出	1,450,000	1,342,638	△ 107,362
少年の主張大会支援事業支出	350,000	320,269	△ 29,731
読書推進支援事業支出	330,000	523,617	193,617
藩校サミット事業支出	300,000	1,218,979	918,979
その他の公益事業支出	100,000	118,295	18,295
通信運搬費支出	195,000	222,239	27,239
消耗品費支出	52,500	136,817	84,317
雑費支出	225,000	255,323	30,323
事務所賃借料支出	270,000	270,000	0
事務職員給料支出	630,000	450,551	△ 179,449
会議費支出	105,000	72,189	△ 32,811
旅費交通費支出	15,000	58,283	43,283
租税公課支出	0	0	0
慶弔費支出	37,500	0	△ 37,500
ホームページ維持費	50,000	95,370	45,370
その他の収益事業支出	0	0	0
事業費計	5,460,000	6,364,680	904,680
② 管理費			
事務職員給料支出	210,000	150,184	△ 59,816
会議費支出	35,000	24,063	△ 10,937
旅費交通費支出	5,000	19,427	14,427
通信運搬費支出	65,000	74,080	9,080
消耗品費支出	17,500	45,606	28,106
雑費支出	75,000	85,108	10,108
事務所賃借料支出	90,000	90,000	0
慶弔費支出	12,500	0	△ 12,500
その他の管理費支出	0	0	0
管理費計	510,000	488,468	△ 21,532
事業活動支出計	5,970,000	6,853,148	883,148
事業活動収支差額	△ 652,000	△ 779,092	△ 127,092
3. 特定費用準備資金積立額	0	1,740,940	1,740,940
II 投資活動収支の部	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0
IV 予備費支出	68,000	0	△ 68,000
当期収支差額	△ 720,000	△ 779,092	△ 59,092
前期繰越収支差額	2,440,000	4,866,136	2,426,136
次期繰越収支差額	1,720,000	2,346,104	626,104

(注) 予備費 使用せず

財産目録 (単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	28,439
普通預金	1,290,131
普通預金	843,664
郵便貯金	203,870
未収金	0
流動資産合計	2,366,104
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
投資有価証券	7,161,405
基本財産合計	7,161,405
(2) 特定資産	
周年記念準備資金	1,740,940
(3) その他固定資産	0
固定資産合計	8,902,345
資産合計	11,268,449
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	0
預り金	20,000
流動負債合計	20,000
負債合計	20,000
III 正味財産	
正味財産	11,248,449

有価証券の内訳
内訳： 東京電力株式 1,983株 (内登録株 19株)
東京瓦斯株式 2,250株 (株式併合・株式分割による株数の異

科 目	予算額	決算額	差 異
事業費			
(進脩塾)	1,450,000	1,342,638	△ 107,362
(少年の主張支援)	350,000	320,269	△ 29,731
(読書推進支援)	330,000	523,617	193,617
(藩校サミット支援)	300,000	1,218,979	918,979
(広報発行)	250,000	274,732	24,732
(その他の公益事業)	100,000	118,295	18,295
(総会費用)	1,100,000	1,005,378	△ 94,622
(会議費)	105,000	72,189	△ 32,811
(旅費交通費)	15,000	58,283	43,283
(通信運搬費)	195,000	222,239	27,239
(消耗品費)	52,500	136,817	84,317
(慶弔費)	37,500	0	△ 37,500
(ホームページ維持費)	50,000	95,370	45,370
(租税公課)	0	0	0
(雑費)	225,000	255,323	30,323
(事務職員給与)	270,000	270,000	0
(事務所賃借費)	630,000	450,551	△ 179,449
小 計	5,460,000	6,364,680	904,680
管理費			
(会議費)	35,000	24,063	△ 10,937
(旅費交通費)	5,000	19,427	14,427
(通信運搬費)	65,000	74,080	9,080
(消耗品費)	17,500	45,606	28,106
(慶弔費)	12,500	0	△ 12,500
(雑費)	75,000	85,108	10,108
(事務所賃借費)	90,000	90,000	0
(事務職員給与)	210,000	150,184	△ 59,816
小 計	510,000	488,468	△ 21,532
合 計	5,970,000	6,853,148	883,148
積立基金取崩支出	0	1,740,940	1,740,940
予備費	68,000	0	△ 68,000
合 計	6,038,000	8,594,088	2,556,088

貸借対照表 (単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	28,439	57,292	△ 28,853
普通預金	2,133,795	3,390,154	△ 1,256,359
郵便貯金	203,870	1,698,690	△ 1,494,820
流動資産合計	2,366,104	5,146,136	△ 2,780,032
2. 固定資産			
(1)基本財産			
投資有価証券	7,161,405	6,565,864	595,541
(2)特定資産			
周年記念準備資金	1,740,940	0	1,740,940
(3)その他固定資産	0	0	0
固定資産合計	8,902,345	6,565,864	2,336,481
資産合計	11,268,449	11,712,000	△ 443,551
II 負債の部			
未払金	0	280,000	△ 280,000
預り金	20,000	0	20,000
負債合計	200,000	280,000	△ 260,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	11,248,449 (7,161,405)	11,432,000 (6,565,864)	△ 183,551
正味財産合計	11,248,449	11,432,000	△ 183,551
負債及び正味財産合計	11,268,449	11,712,000	△ 443,551

平成三十年度
(公財)忍郷友会役員名簿

理事

会長 松平 忠昌
副会長 鈴木 秀憲
事務局長 矢澤 大和

理事 新井 啓介
理事 大野 年司
理事 小川 雅以
理事 黒瀬 陽夫
理事 小山 博
理事 清水 龍男
理事 瀬山 文孝
理事 橋本 恭一
理事 山本 憲作
理事 渡辺 栄一

監事

監事 岩崎 安裕
監事 加藤 力也
監事 府川 吉延

名誉理事

名誉理事 江草 忠敬
名誉理事 宮川 公男

特別会員

特別会員 阿部 正靖
特別会員 田代 敬二
特別会員 古市 實

評議員

評議員 赤羽 一真
評議員 新井 誠
評議員 五十幡和彦
評議員 碓井 勝也
評議員 永島 健雄
評議員 江利川 毅
評議員 遠藤 初枝
評議員 大久保 毅
評議員 大谷 純一
評議員 大澤 誠
評議員 大西 義道
評議員 奥田 七寿
評議員 川野 健人
評議員 川辺 秀夫
評議員 倉持成一郎
評議員 栗原 隼子
評議員 小池 俊輔
評議員 小林 晴夫
評議員 小山喜一郎
評議員 須郷 和美
評議員 鈴木スイ子
評議員 田島 博夫
評議員 中川 邦明
評議員 中島 捷二
評議員 長谷川雅敏
評議員 東 瑞芳
評議員 福島 伸悦
評議員 保泉 欣嗣
評議員 細井 保雄

評議員 松岡 由浩
評議員 諸貫 健一
評議員 八木原 保
評議員 山本 正幸
評議員 横川 福治
評議員 渡辺 久記

小型六法のトップセラー。刊行40周年!

ポケット六法

【編集代表】
宇賀克也
佐伯仁志

収録法令202件 平成31年版 定価 2052円(税込)

学習に実務に「役に立つ」判例付き六法

有斐閣 判例六法

【編集代表】
長谷部恭男
佐伯仁志
酒巻 匡

平成31年版 定価 3000円(税込)

実務家向け判例付き六法の決定版!

有斐閣 判例六法 Professional

【編集代表】
宇賀克也 実
中里 長谷部恭男
佐伯仁志
酒巻 匡

平成31年版 定価 5940円(税込)



代表取締役社長 江草貞治
株式会社 有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312 FAX03-3264-5030



小山商事株式会社

社長 山 博

社長 小 喜一郎

本社 行田市埼玉三三五一

TEL〇四八―五五九―四一二(代)

リカリッシュ旭町店

TEL〇四八―五五九―三七一一

リカリッシュ太井店(熊谷)

TEL〇四八―五九一―四七一一

宝くじ売場持田店

TEL〇四八―五五三―四七一一

平成三十年度 会員名簿

法人会員

(株)リノン
 (株)シンセイ開発
 (有)羽生モーターズスクール
 医療法人 葦の会
 (株)行田ガーデン
 (株)碓井測研
 (株)有斐閣
 税理士法人大久保会計
 大野建設(株)
 小川工業(株)
 公認会計士
 (有)中央百貨店
 (株)ケイマス
 ガクヤ(株)
 東旭(株)
 小山商事(株)
 (株)清水アーネット
 ベルヴィアイトピア
 (株)協同バス
 税理士法人森経理事務所
 (株)ファイブイズホーム
 (株)八木橋百貨店
 (株)ジム
 (資)青美矢沢商店
 (株)サンワックス
 山本商事(株)
 山本食品工業(株)
 (株)ヨコカワ

新井 啓介
 新井 誠
 五十幡 和彦
 石井 義則
 稲垣 功一
 碓井 勝也
 江草 忠敬
 大久保 毅
 大野 年司
 小川 雅以
 奥貫 健一
 川辺 秀夫
 黒渕 陽夫
 小池 俊輔
 小菅 克祥
 小山 博
 清水 龍男
 清水 利一
 鈴木 秀憲
 府川 吉延
 細井 保雄
 八木橋 宏貴
 八木原 保
 矢澤 大和
 山田 晃
 山本 憲作
 山本 正幸
 横川 福治

(株)十万石ふくさや
 渡辺(株)

正会員

青柳 憲助
 阿部 秀二郎
 新井 宏幸
 飯田 芳幸
 石渡 健司
 伊藤 和江
 今津利之助
 丑久保紀美
 大河原 梅夫
 大谷 文孝
 興 淳明
 小澤 誠邦
 香川 宏行
 風間 敏弘
 加藤 元三
 鴨田 武
 川島 亨
 岸 誠太郎
 木村 忠夫
 倉田 耕市
 小久保和子
 小菅 恵一
 小林 友明
 斉藤 準一
 坂本 光代
 清水 威男
 鈴木 佳代子
 鈴木 淳一
 世川 進
 赤松 明
 新井 重人
 安部 節子
 井桁 浄継
 伊東 大輔
 井上 啓子
 岩佐 博之
 江原 史郎
 大澤 孝至
 岡田 則之
 小倉 佐江子
 小幡 和佑
 柿沼 貴代
 粕谷 悦昭
 加藤 一夫
 鹿山 高彦
 川田 隆生
 岸田 昌久
 国本 哲秀
 久保田 春明
 木暮 照子
 小林 一好
 小松 和弘
 斉藤 哲夫
 島崎 政敏
 杉田 禮三
 鈴木 敬一郎
 鈴木 貞二郎
 世川 裕剛
 秋山 佳子
 新井 教弘
 飯島 千裕
 石井 直彦
 伊藤 秀一
 今井 福司
 岩田 譲啓
 江森 保
 大嶋 康三
 小川 秀樹
 小澤 光太郎
 折井 幸子
 柿沼 貴志
 片桐 章雄
 加藤 誠一
 川島 清実
 川鍋 和史
 木嶋 清
 倉田 君子
 小池 利昌
 小島 敏男
 小林 義和
 斎藤 慶一
 坂田 敬子
 清水 孝男
 須郷 隆
 鈴木 茂
 鈴木 寿子
 世川 祐多

横田 康介
 渡邊 久記

関田 悦男
 滝澤 布沙
 田中 利幸
 戸ヶ崎 直司
 中川 忠昭
 中西 忠夫
 新島 璋記
 野口 浩一
 橋本 祐一
 長谷川 盛雄
 羽鳥 弘
 平井 ユリ枝
 古市 恒裕
 町田 祥子
 松野 史郎
 ミカミ ヒロシ
 武笠 勇
 森 安正
 山田 映子
 吉田 豊彦
 渡辺 邦道
 島田 淳一
 新井 弘美
 小森 谷賢一
 山口 修
 金田 義則
 (埼玉県立進脩館高校 校長)
 (埼玉りそな銀行行田支店長)
 (武蔵野銀行 行田支店長)
 (埼玉信用金庫行田支店長)
 (群馬銀行行田支店長)
 関根 俊一
 田島 正雄
 津田 馨
 時田 忠彦
 長島 康雄
 根岸 友憲
 野中 厚
 蓮見 牧子
 畠山 貞子
 半田 太
 藤倉 武
 古沢 勇治
 松井 正俊
 松本 太郎
 水谷 良二
 村賀 英介
 森田 俊和
 横田 保良
 若松 良一
 綿貫 守男
 高橋 弘行
 田代 克太郎
 葛 久子
 富田 久雄
 長島 豊
 中山 孝文
 野口 啓造
 野村 正幸
 長谷川 昌夫
 畠山 恒雄
 平井 武夫
 藤田 敬
 細谷 茂樹
 松平 由美子
 松本 安夫
 水野 武久
 最上 絹江
 梁瀬 里司
 吉田 幸一
 渡辺 幸子

(平成三十一年十二月一日現在)

平成三〇年度事業行事経過メモ

1 会議

(一) 総会

① 定時総会開催

(会務報告、講演会、懇親会)

日時 平成三〇年六月二日(土)

参加者 四十五名

午後三時～午後七時三〇分

会場 ベルヴィアイトピア

来賓

行田市副市長

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

衆議院議員

埼玉県議会議員

行田商工会議所名誉会頭

行田商工会議所会頭

行田商工会議所副会頭

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

行田さくらロータリークラブ会長

松平忠昌議長の議事進行により、

平成二十九年度の事業および決算、
監査について報告を行なった。

記念講演

講師

中島 洋一氏

行田市教育委員会文化財

保護課長

演題 「日本遺産と行田市の
ストーリー」

(二) 役員会

① 理事・監事会

日時 平成三〇年五月七日(月)

午後一時三〇分～午後四時
三〇分

場所 公益財団法人忍郷友会本部
事務所

審議事項

1 平成二十九年度事業報告書
(案)の承認を求める件につ
いて

2 平成二十九年度収支決算書
(案)の承認を求める件につ
いて

3 評議員会開催の承認を求める
件について

4 定時総会・講演会・懇親会ご
案内(案)について

5 定時総会・講演会・懇親会
タイムテーブル(案)につい
て

6 総会・講演会・懇親会ご招待
者リスト(案)について

7 新入会員承認の件について

② 評議員会

日時 平成三〇年六月二日(土)

午後一時三〇分～二時五〇分

会場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成二十九年度事業報告書に
ついて

2 平成二十九年度収支決算書に
ついて

3 評議員の任期満了につき新規
選任の承認を求める件につい
て

③ 持回り理事会

日時 平成三〇年七月六日(金)

理事・監事宛賛否返信用は
がきを同封し郵送した。

1 (仮)「進脩塾30周年記念事
業委員会」設置承認の件

④ 理事・監事会

日時 平成三〇年九月十九日(水)

午後一時三〇分～午後三時
三〇分

会場 行田市商工センター四〇二
号室

審議事項

1 平成三十一年度(二〇一九年
度)事業計画(案)について

2 平成三十一年度(二〇一九年
度)予算(案)について

3 新入会員承認の件

4 予算総会及び賀正会承認の件

⑤ 評議員会

日時 平成三〇年十一月七日(水)

午後一時三〇分～午後三時
三〇分

会場 行田市産業文化会館二階第
二会議室

審議事項

1 平成三十一年度(二〇一九年
度)事業計画について

2 平成三十一年度(二〇一九年
度)予算について

3 新入会員承認の件

4 予算総会及び賀正会承認の件

5 評議員候補者承認の件

2 教育奨励事業

(1) 進脩塾活動

日時 毎月第四土曜日

午後二時～午後四時

会場 行田市商工センター四〇三
号会議室

講師 荒井 桂 先生(公財)
郷学研究所・安岡正篤記
念館副理事長兼所長)

四月 「孟子」 荒井 桂 先生

八月 「孟子」 荒井 桂 先生

十月 「孟子」 荒井 桂 先生

十一月 「孟子」 荒井 桂 先生

内容 進脩塾の目的、講義、受講
者の感想、今日の論語から

*行田ケーブルテレビにて放映

③ 忍藩子ども塾素読教室の開催

日時 毎月第一、第二、第三土
曜日

午前九時～午前十二時
場所 行田市郷土博物館講座室
受講者 行田市内在住の小学生
五〇名
指導者 田代敬二・奥田七寿・川
田隆生・相馬詩子
内容 論語・漢詩の素読学習



子ども塾開校式

④ 東京支部素読教室開催

日時 毎月二回土曜日
午後二時三〇分～午後三
時三〇分
場所 天眼寺（東京上野）
受講者 天眼寺関係者 一〇名
講師 川田隆生
内容 論語・漢詩の素読教室

⑤ 漢文検定試験の実施

日時 平成三〇年十一月十七日(土)
午前九時三〇分～午前
十二時
場所 行田市郷土博物館講座室

⑥ 出前出張授業

対象 行田市立埼玉小学校全学年
日時 毎週月曜日
午前八時一〇分～午前八
時三〇分
講師 田代敬二、奥田七寿・川
田隆生
内容 論語・漢詩の学習

(2) 「第三十三回 浮き城のまち行田
少年の主張大会」優秀者表彰

日時 平成三〇年十一月十日(土)
午後一時三〇分～午後四
時三〇分
場所 行田教育文化センター
「みらい」文化ホール
応募者 市内小・中学校児童生徒
応募総数 一〇七四点
発表者 二十四名 渡邊榮一理事
より記念品を贈呈した

(3) 読書推進実行委員会

第十六回講演会開催
「感動が心を育てる」
日時 平成三〇年九月八日(土)
午後一時三〇分～午後三
時三〇分
場所 中央公民館・第1学習室
講師 村上淳子先生
受講者 六十九名

(4) 忍歴史塾

郷土の歴史講座 忍藩松平家の歴
史から江戸時代を検証する
「第二回 江戸時代とは」
日時 平成三〇年五月二〇日(日)
場所 教育文化センターみらい
第一学習室
講師 松平忠昌会長
受講者 一一五名

「第三回 江戸時代の教育につい
て」
日時 平三〇年七月二十一日(土)
場所 教育文化センターみらい
第一学習室
講師 松平忠昌会長
受講者 一〇一名

3 会報75号の発行

会報七十五号を平成三十一年一月
一日に発行
全会員、市内各小、中、高校、幼
稚園、保育園及び素読教室関係者に
配布

4 慶弔

お悔み申し上げます
倉田 耕市 様
(平成三〇年十一月十九日ご
逝去)

5 会員増強対策

新入会者紹介(敬称略 入会順)
紹介者(松平忠昌)

6、予定

・世川 裕剛 様
町田市小山ヶ丘
(株)トライテック
紹介者(矢澤大和)
・森田 俊和 様
熊谷市久保島
衆議院議員
紹介者(松平忠昌)
・野中 厚 様
加須市大越
衆議院議員

○市民公開講座

藩校教育を現代に活かす
「朗唱まつり」
日時 平成三十一年二月二十三
日(土)
場所 行田市教育文化センター
「みらい」

○平成三十一年度(二〇一九年度)

定時決算総会
日時 平成三十一年(二〇一九
年)六月八日(土)
場所 ベルヴィアイトピア

○第十七回全国藩校サミット

萩大会開催
日時 平成三十一年(二〇一九
年)十一月三〇日(土)、
十二月一日(日)

〓知りたい！学びたい！郷土の歴史講座〓

「忍歴史塾」として発足

副委員長 遠 藤 初 枝

昨年十一月、郷土の歴史・日本の歴史を研究し、一般市民を対象とする公開講座又は講演会を開催して潜在的に歴史の好きな方、歴史を学びたい方に貢献することを目的とした歴史塾を立ち上げました。名称を「忍歴史塾」と称して新しい委員会の一つとなりました。

今後様々な形をとりながら、幅広く歴史が学べるよう充実した講座を目指していきます。

今年度の事業は、郷土の歴史講座「忍藩松平家の歴史から江戸時代を検証する」というテーマで全三回の



講座を実施しました。講師は旧忍藩主十六代当主、当会の松平忠昌会長が務め、第一回は「忍藩松平家の歴史を学ぶ」、第二回は「江戸時代とは」、そして第三回は「江戸時代の教育について」という題目で講演を行いました。

第一回講座

「忍藩松平家の歴史を学ぶ」

日時 三〇年三月二十四日(土)午後

一・三〇～三・〇〇

場所 行田市商工センター四〇一

号室(定員一五〇名)

講師 松平忠昌会長

参加者 一六二名

講座概要

長篠城主・奥平信昌と徳川家康の長女・亀姫を父母とした松平忠明を家祖とする松平家は、一八二三年伊勢桑名藩から三方領地替えによってここ武蔵国忍の城主となった。一八二五年桑名から藩校進脩館を移設して漢学、国学、算術、武術など



多岐にわたる学習が行われ、卒業生には林頼三郎(中央大学総長)小川一真(写真家)小山健三、江草斧太郎(有斐閣創業者)を輩出した。幕末は江戸湾の防衛に務め、その当時に守った第三台場は、現在お台場公園として残っている。戊辰戦争では、新政府側に恭順して忍藩として「白河口の戦い」に出兵参戦した。埼玉の天祥寺墓所には桑名から移封された折の当主第九代忠堯公、第十代忠彦公、第十一代忠国公が祭られている。

第二回講座

「江戸時代」とは

日時 五月二〇日(日)午後一・三〇

～三・〇〇

場所 教育センターみらい「第一

学習室」(定員八〇名)

講師 松平忠昌会長

参加者 一三五名

講座概要

一六〇〇年関ヶ原の戦いから一八六七年大政奉還に至るまでの二六六年間、将軍を頂点としたピラミット構造の幕藩体制の国家であった日本は、世界にも類を見ない程豊かに安定していた。教科書にもよく出てくる参勤交代、士農工商、武士社会などの社会制度は、諸制度によって全体的に規律がよく守られていた。また鎖国令により長期的に安定した平和な時代でもあり、人口も二六〇年の間に約三倍の三〇〇〇万人超に達し、貧乏人は居るが貧困ではない分相應の生活をしていたと理解される。また来日した外国人は、日本人の礼義正しさに感心し、特に識字率の高さに驚いていたことが書物に残っている。

第三回講座

「江戸時代の教育について」

日時 七月二十一日(土)午後一・

三〇～三・〇〇

場所 教育センターみらい「第一

学習室」(定員八〇名)

講師 松平忠昌会長

参加者 一二二名

講座概要

江戸時代の教育制度は、主に藩校、寺子屋、私塾の三つに代表される。藩校は、藩の藩士やその子弟のため

に設立され、主に古典（四書五経）を学び文武に勤しみ、勤勉な学習生活が習慣付けられていた。寺子屋は、庶民の教育施設で、幕末には全国で一五〇〇〇カ所あったとの記録があり、読み書き算盤が教えられていた。私塾には、「中江藤樹」や「荻生徂徠」といった儒学者の塾や「吉田松陰の松下村塾」などがあり、幕末には優秀な人材を輩出した。藩校と寺子屋の果たした役割は、近年の世界における日本人の学力の高さ、識字率の高さの基になったと見られている。

充実したテキスト

今回の三講座を通して画期的だったのは、講師（松平会長）自ら手作りの小冊子としたレジュメでした。字も大きく写真や年表等も入っており、各々のテーマに添って分かり易い内容になっていました。とても好評で



忍歴史塾「知りたい！学びたい！郷土の歴史講座」に参加して

全三回講座で「忍藩松平家の歴史から江戸時代を検証する」というテーマでしたが、講師をお務めいた

余分に求める人も多く、用意したすべてが無くなりました。また講師の飾らないお人柄からしみ出る本当のような本当の話に感動して皆さま帰られました。

三回とも会場いっぱい受講者で、忍歴史塾の事業は成功裏に終了しました。来年度は、郷土の偉人を検証する（仮名）というテーマでの講座を計画しておりますので是非ご期待下さい。



的 場 章

だいた松平会長の楽しく熱のこもったご説明、そして忍藩松平家第十六代当主ならではのお話を伺うことが

でき、毎回片道二〜三時間の道のりも全く苦にならず、むしろワクワクしながら参加することができました。まずは、資料作りから講師まで労をお取りいただいた松平会長に深く感謝申し上げます。

大阪育ちで千葉県佐倉市在住の私がなぜ参加したかと言いますと、有斐閣との縁であります。平成二十九年、私は永年勤めたみずほ銀行から有斐閣に向・転籍しました。明治十年（一八七七年）創業の老舗出版社である有斐閣は、行田ではご存知の方も多いと思いますが、創業者江草斧太郎が忍藩出身なのです。出向時に『有斐閣百年史』を読み、斧太郎が生まれ育った行田という土地に興味を湧き、翌日には電車に乗り行田の街を巡りました。それがきっかけで、この歴史講座を知ったのです。

江草斧太郎は、安政四年（一八五七年）忍藩松平侯に仕えた藩士江草孝太郎の長男として生まれました。斧太郎は藩校進脩館に学び、明治維新後十七歳の時、同じ忍藩出身の伊藤徳太郎が経営する京橋の書店慶雲堂に入店。三年後、神田神保町にて有斐閣（創業時は有史閣）を創業し、以来、法律を中心とする学術書出版社として一四〇年の歴史を重ね、現在は六代目江草貞治が社長を務めております。

慶雲堂では「斧太郎の蠟燭」というエピソードがあるそうです。同僚が寝静まったあと、ひとり蠟燭の灯

を頼りに勉強したとのこと。そうであれば僅か三年の修行で独立することはできなかったでしょう。創業した神田神保町は、今や世界一の本の街として知られていますが、当時、書店は殆どありませんでした。ちょうどその頃、神田には東京大学をはじめ私立大学も次々と設立され、全国から集まってくる学生たちを相手に商売を始めたわけのです。

斧太郎夫婦は、学生の面倒をよく見てやり、様々な相談に乗ったり出世払いでお金を工面してあげたりしたそうです。その学生が教授となつて本を書いてくれるようになり、学術書出版社として成長するベースとなりました。こうしたエピソードの原点には、斧太郎が幼いころから藩校進脩館で学んだことが底流にあることは間違いないと思います。

藩校進脩館の流れを汲み、今でも進脩塾が子供たちへの教育活動を続けておられることは素晴らしいことだと感服しております。有斐閣も学術界の伴走者として二〇〇年、三〇〇年と継続できるよう努力してまいります。有斐閣では学術専門書だけでなく、一般の方にもわかりやすい入門的な本や、学び直しに最適な本もたくさん出しておりますので、是非お試しいただければ嬉しいです。最後になりましたが、忍郷友会さま、行田の皆さまの益々のご発展をお祈りしております。松平会長、楽しい講座を本当に有難うございました。

第十六回全国藩校サミット舞鶴大会報告

みなと舞鶴、藩校に学ぶ人づくりの精神

平井 武夫

青と赤の町に心惹かれ、舞鶴を訪れる人は多いだろう。

光る海、透き通る空は、「青」の水平線で不二となる。海の京都と呼ばれる魅力だろう。そして「赤」、舞鶴赤レンガ（旧海軍の保管倉庫）

重要文化財）は、そのドシツとした歴史の深みと重厚さが、訪れる人のノスタルジーに訴えかけて淡い郷愁感を誘う。

「呼吸する赤レンガ

潮風が僕を海へといざなう

異国へと続く碧の向こうへ

ふと時の流れを重ねてみる」

地元有志の方々が作詞（杉岡秀

紀）・作曲（花沢耕太）した軽快な

リズムの歌が、会場の舞鶴総合文化会館に。舞鶴市紹介の広報ビデオに

流れるテーマソングであり、新鮮な

説得力があった。市の中心部は、東

部（東舞鶴）と西部（西舞鶴）があ

り、東は、かつては軍港都市、戦前

は「旧海軍舞鶴鎮守府」が置かれた

四大軍港の一つ。戦後に大陸からの

引揚者を迎えた引揚桟橋が歴史の重

みを教えてくれる。西は、かつての

城下町。田辺城主の牧野家は、三河



東へ西へ

このタカラモノを未来へ」

この歌には、南へ北へ、かけがえない「タカラモノ」を未来に伝えるべく、語り継ぐ舞鶴市民の思いと誇りが凝縮されていた。

オープニングの自衛隊舞鶴音楽隊の演奏が、「日本海海戦記念行進曲」「岸壁の母」「異国の丘」「ふるさと」「行進曲軍艦」と進むと、時代が一挙に遡る。戦前、戦後の歴史が胸に蘇ってきた。これは、もはや過去の歴史史ではない。舞鶴は、これらの歴史的建造物等の「タカラモノ」は「日本遺産」に認定、「日本の二十世紀遺産二十選」に選定されるなど、その歴史性を未来に向けて昇華させつつ、次代を担う若き青年が立ち上がっている。その原点には、「明倫館」の藩校教育の「人づくり」の精神が漲っていた。

実行委員会事務局長・門中雄一郎氏の開会宣言を皮切りに、牧野行成実行委員長挨拶、来賓挨拶と続き、二十九人の旧藩主紹介、続いての徳川恒孝（つねなり）氏（徳川宗家十八代当主）の代表挨拶になると、参加者の目は輝きを一段と増していった。

記念講演に移る。テレビの歴史対談などでご活躍の小和田哲男氏（静

「ありがと う 今伝えたい

僕らが 生まれたこの舞鶴で

「静かに眠る城の跡
満開の桜よ 満天の友よ
ツワモノたちの夢の跡
そつと時の流れが重なりゆく」



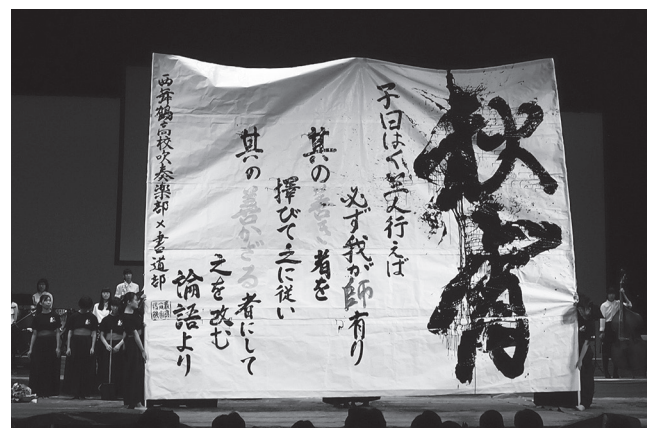
岡大学名誉教授・文学博士」が「江戸時代の各藩における人材育成」と題して、①武士子弟の教育―戦国時代と江戸時代のちがい ②藩士子弟の教育機関としての藩校 ③各藩が藩校を創設したのはなぜか この三つの観点から大変興味深い歴史考察は聞く人の心をグイグイと引きつけた。戦国時代には学校はなかった。但し、栃木県足利市の「足利学校」(室町時代)は別格で、ここは「大人」のための教育機関であった。その後、戦国時代に入って、禅僧が「大人」を教育、上杉謙信、武田信玄、今川義元、徳川家康など軍師を育てる意

味合いからの教育であったと。江戸時代に入って、ほとんどの藩で藩校を開設。二七〇藩中、二一九藩で開校した。背景には、領民を支配・指導していく武士階級の自覚を促し、富国強兵政策を推進していく人材の育成が急務であったようである。

続いて、「論語教室素読発表」は、明倫館の敷地に建つ「明倫小学校」の参加だけに、開校一四六年目の歴史を刻んだ修練は見事であった。論語を通して、人の道を学ぶ伝統を披瀝してくれた。

「合同パフォーマンス」は、京都府立西舞鶴高等学校の吹奏楽部と書道部のコラボとあって庄巻であった。日頃コンクール目指して研鑽を積み重ねた成果や、論語の言葉を毛筆で大書するなどしてその「技」を見せてくれた。同校は、明治四十年開校から百十一年目を迎える京都府北部屈指の伝統校である。千九百三十六年のベルリンオリンピックに棒高跳びで出場し、西田修平選手と銀・銅メダルを分かち合い、「友情のメダル」として世界の人々を感動させた大江季雄の母校である。

式典は、次期大会の開催地の発表へと移り、副実行委員長の白石宗靖氏が登壇した。明治維新百五十年、変革の電源地「萩市」が発表され、参加者は、万雷の拍手で賛意を表明



した。

「ありがとう 今伝えたい
みんなが育ったこの舞鶴で

Let's sing a song in my hometown
南へ北へ
このタカラモノを未来へ」

「思えばいつも 心のそばに
岸壁の故郷があった」

―青年の歌声が胸に流れる。
心に沁みる。

帰らぬ愛し子^{いとこ}を待つ岸壁の母の姿は、舞鶴の人達には、時代を越えていつまでも心の故郷^{ふるさと}なのであろう。

嵐に見舞われた、たった一日の短い舞鶴滞在だったが、ふと何か、人間の心に通う「優しさ」と、忘れてはならない母の心に脈打つ「平和」と「平安」の大切さを心に刻んで、参加者一同、舞鶴湾を後にした。

丹後田辺藩の藩校 「明倫館」

江戸時代・天明年間(一七八一〜八八)、第六代藩主牧野宣成が、田辺城の三の丸に「明倫斎」を開設。文久年間(一八六一〜六三)に第九代藩主の時代に「明倫館」とした。

その校訓は

①進取(先取)

―何事も進んでせよ

②自治

―自分ことは自分でせよ

③協同

―互いに助け合いです
である。

明治六年、その地所・建物を引き継ぎ、校地校舎として、校名も継承して現在の「舞鶴市立明倫小学校」となっている。

第16回 全国藩校サミット 舞鶴大会・プログラム

9月29日(土)

・13時00分

藩主会議 (ホテルマーレたかた)

・13時00分

藩校会議 (舞鶴市総合文化会館)

・14時00分

藩校サミット (同上)

・オープニング

海上自衛隊舞鶴音楽隊

・開会

大会実行委員会事務局長 門中雄一郎

・開催地挨拶

大会実行委員長 牧野行成

・主催者挨拶

漢字文化振興協会会長 石川忠久

・開催地代表挨拶

舞鶴市長 多々見良三

・来賓代表挨拶

京都府知事 西脇隆俊

・大会役員代表挨拶

衆議院議員 本田太郎

・祝吟・祝舞「舞鶴を詠ず」

作・石川忠久

神心流尚道館 六世家元 安倍秀風

・旧藩当主紹介

・旧藩当主代表挨拶

徳川宗家 第18代当主 徳川恒孝

・牧野御殿復元図立体映像

舞鶴工業高等専門学校

・舞鶴市広報PR

・記念講演

「江戸時代の各藩における人材育成」

静岡大学名誉教授 小和田哲男

・論語教室素読発表

舞鶴市立明倫小学校六年生

・合同パフォーマンス

京都府立西舞鶴高等学校

吹奏楽部・書道部

・舞鶴宣言の発表

大会副実行委員長 水谷悦之

・次期大会開催地発表

大会副実行委員長 白石宗靖

・引継書受渡

大会実行委員長 牧野行成

・閉会の辞

大会副実行委員長 白石宗靖

・18時30分

交流会 (ホテルマーレたかた)

9月30日(日)

台風のため、エクスカーションは中止

第十六回全国藩校サミット舞鶴大会に参加して

栗原 毬子

九月二十九日(土)、大型台風二十二号が接近する中、私達、忍郷友会メンバーは、雨に濡れた日本海の町・東舞鶴駅に降り立ちました。会場の舞鶴総合文化会館に入るや、敷内流の立礼茶席のおもてなしにホッと一息つけました。

会場の大ホールは海上自衛隊舞鶴音楽隊の力強い演奏で幕を開けました。実行委員長の牧野行成様は、本年が牧野家入部三百五十年を記念し

ての開催であると話され、意義の深さを知りました。忍藩は、松平会長

以下総勢二十五名の参加です。壇上、全国の旧藩ご当主が紹介され、代表として徳川宗家第十八代・徳川恒孝様のご挨拶されました。お殿様方のご立派なお姿は歴史好きの私には、胸躍るひと時でした。

翌日は、台風の影響を心配した実行委員会のご判断で、エクスカーシオンは中止になりました。「岸壁

の母」と同じような体験を、親族(当時ハルピン居住)にもつ身として、あの「岸壁」を訪ねてみたかった思いは強く、天候不順で叶えられず残念でしたが、「楽しみを次の機会に」と、心に期して、行田に帰って参りました。



海上自衛隊舞鶴音楽隊



舞鶴市立明倫小学校の論語教室素読発表

第三十三回 浮き城のまち行田

「少年の主張大会」

少年の主張 委員長 瀬山文孝

平成三〇年十一月十日(土)十三時より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第三十三回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、(公財)忍郷友会が後援となり毎年開催しています。昭



本会 渡辺栄一理事挨拶

和六十一年度の初回から今年まで三十三回目になります。今回の発表者は英語発表者を含む市内小学校六年生十六名と中学校二・三年生が十名の合計二十六名の児童生徒が参加しました。

今年のテーマは家族・あいさつ・言葉・将来の夢・日常生活の中で感じること・など多岐にわたるテーマで力強く発表していただきました。

主催者を代表して行田市教育委員会教育長の鈴木トミ江さまのご挨拶があり、来賓挨拶では当財団松平会長が所用で欠席の為、渡辺理事よりご挨拶をいただきました。渡辺理事からは、忍郷友会は明治三十八年十一月に生まれた団体ですが、それ以来百十三年間、自らの研鑽と親睦事業、そして、一貫して行田ゆかりの将来を担う人々の育成を行ってきました。これからもこの大会を大事にしてゆきたい。とお言葉を頂きました。そして松平会長からは、こ

の大会は若い人たちの言葉や提案を素直な形で聞かせて頂く事が出来る楽しみなイベントです。行田市はこの大会を大切に維持運営され、継続的な風土を築かれていることに感謝を受けています。本日発表される皆さんは、初めての経験への挑戦だと思いますが、アナログ思考の中でのいろいろ考えてきて頂いたと思います。これからもデジタル思考だけではなく、アナログ思考も忘れずにいてください。とのメッセージを頂きました。本年も優秀者は即日発表となり表彰状が授与されました。受賞者は、教育長賞・下忍小学校 佐々木頼愛さん、桜ヶ丘小学校 菊池優那さん、行田中学校 大川翔大さん。忍郷友会長賞 南河原小学校 吉野

忍郷友会会長賞三作品を紹介します

忍郷友会長賞 小学校の部

涙の先には…

行田市立南河原小学校六年 吉野 恵 南

うれし涙、くやし涙、悲しい涙、

痛みの涙、笑いの涙。涙には、いろいろな種類があります。この全ての涙を、私はミニバスケットボールで

恵南さん、太田東小学校 益岡未藍さん、南河原中学校 森田琉那さん、以上六名が受賞されました。また、発表者全員に忍郷友会より「広辞苑」を授与いたしました。

なお、優秀者の内小学生の一人が次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは渡辺理事・矢澤理事・小山理事・小川理事・奥田評議員・須郷評議員・鈴木(ス)評議員・横川評議員・増田事務局員の参加を頂きました。

来年の三十四回目の大会にも多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

知りました。

私がミニバスケットボールを始めたのは、一年生の時です。ルールも分からず、ゴールまでボールが届き



ませんでした。最初は全然上手ではなかったけど、先ばい達と一緒にいられる事が、楽しくてしかたがありませんでした。私はすぐに、バスケットボールに夢中になりました。練習をした分だけ出来る事がどんどん増えていくからです。初めてシュートが決まった日の事は、今でもはっきりと覚えています。

私が四年生になった時、上級生は六年生一人しかいませんでした。そのため私達四年生も、チームの中心となりました。上級生が少なかったこともあり、なかなか試合に勝つ事が出来ませんでした。チームをまとめ、引っ張ってくれているキャプテンのためにも、時にはきびしく、時にはやさしく指導してくれるコーチ達のためにも、そして自分達のためにも、早く一勝したいと思っていました。

そして半年が過ぎたころの大会での事です。ラスト二秒、キャプテン

がシュートを決め逆転、一点差で勝利したのです。やっとの思いでもぎとった一勝、ブザーがなったしゅんかん、私達もコーチ達も応援していた保護者も全員泣いていました。皆、涙でぐちゃぐちゃの笑顔です。

そして六年生になって初めての試合の日が来ました。六年生なんだから、私達がんばらなきゃ、引っ張らなきゃ、勝たなきゃ、そんな思いが空回りしたのか、負けてしまいました。その夜、私は涙が止まりませんでした。負けたくやしきではなく、思うように自分のプレーが出来ず、コートで何をしたらいいのか分からなくなっていたのです。泣いている私に母が言いました。

「小学生のうちに、こんなに夢中になれる物に出会えて幸せだね。自分のやってきたことを信じて、楽しめばいいんだよ。だって、迷った時や困った時は、仲間がいるんだから」母の言葉を聞いて、また涙があふれました。私の流したたくさんの涙の先には、仲間がいます。そして目標があり、夢があります。涙のたびに仲間との絆は強くなり、目標を達成し、夢に近づいてきました。

来年から私が通う中学校には、バスケットボール部がありません。大好きな仲間と大好きなバスケットボールが出来るのもあと少しです。だ

から思いっきりバスケットボールを楽しみたいと思います。うれし涙、くやし涙、悲しい涙、痛みの涙、後悔の涙、感謝の涙、別れの涙、いかりの涙、笑いの涙。大切な仲間と、

忍郷友会長賞 小学校の部

過去の自分に勝つために

行田市立太田東小学校六年 益 岡 未 藍

「強くなりたい。」

三年前の冬、空手と出会った私は、母にそう言いました。「精神から強くなつてほしい。礼儀をしつかり身に付けてもらいたい。」という母の願いもあり、私は空手を始めました。

私が一番に先生から教えていただいたのは、「礼に始まり、礼に終わる。」ということです。礼儀を重んじる武道を通して、それまでの自分

まだまだいろいろな涙をたくさん流したいです。だって涙の先には、前よりもっと強くなった、笑顔の私がまっているから！

の生活も見直すようになりました。

練習は、男女混合で行います。時には、年上の人と組むこともありました。何度も技を決められ、苦しくなった私は、

「もう辞めたい。」

と、何度も思いました。そんな時、先生が

「苦しいのは、みんな同じ。痛くて苦しい。けど、やった分は必ず力になる。」

と、言ってくれました。私は、この言葉と、共にけい古をしてくれた友達がいながら、辛い練習を続けてくることができました。

みなさん、これを見てください。

これは、私が初めて勝ち手に入れた時のたてです。初めて試合に勝ったうれしさ、練習を続けてきて良かった



忍郷友会長賞 中学校の部

自分意識改革

行田市立南河原中学校三年 森田 琉那

私は、ここ最近で自分におこった出来事を通して、ある気づきがありました。そのことを、皆様にお話したいと思います。

私の知人が、黒人のホストファミリーをした際に、近所の人に差別的発言をされたそうです。その内容は、「普段何を食べて生活しているのか。」「風呂に入ると水の色は変わるのか。」

たという達成感。私の思いがたくさん詰まった、大切なたてなのです。初めて勝利した時から、私はより空手が好きになりました。

「もっともっと強くなりたい。」

暑い夏も、こごえるように寒い冬も、私は仲間と共につけい古に励みました。

「一日一日のけい古を大切にしよう。昨日の自分より強くなろう。」

そして、今年私は、世界大会を目指した選手達のグループに入ることができました。厳しくなっていく練習に、「本当に大丈夫なの。」

と母から心配の声もあがりました。しかし、

「強くなりたい。必ず最後まで頑張るから。」

と私の思いを伝えると、母は今まで以上に応援してくれました。

今、私には夢があります。それは、世界チャンピオンになることです。

「そんなの無理だ。」とくじけそうになることはありません。でも、そこであきらめてしまったら、その夢は一生かかえません。過去の自分に勝つために、今日も私はけい古に励みます。

など、それはひどい内容で同じ人間に対してとても失礼だと感じました。

そんな話を聞いた後日、私の家の周りにはたくさんさんの工場があり、学校からの帰宅時にそこで働いている、外国人の方にあいさつをしました。するとその人は驚いた後、笑顔で喜んでるようにあいさつを返してくれました。その様子を見ると、普段



私たち日本人にあいさつをされないように感じました。あいさつを返されたとき、私も嬉しかったのですが、あいさつをすることに一瞬ためらってしまいました。それは、自分との違いに恐怖を感じたからです。その違いとは、ただ肌が黒いこと、ただ背が高いことだけです。私はふと思いました。この前、知人から聞いた差別的発言をした人と同じように無意識に差別的な目を私自身も持っていることに。

なぜ、差別的な目を持つてしまったのかを考えてみると、私は自分との違いを嫌がってしまったのだと思いました。肌の色、体の大きさ、使う言葉の違い、髪型、目の色。人は一人一人違います。ですが、本当は「違い」ではなく、一人一人の「個性」なのではないでしょうか。

そこで私は、無意識的に持つてしまった差別の目を意識的に変えていく必要があると考えました。その

ためには、「個性」を尊重し、お互いを理解し合う力が必要です。

では、このお互いを理解し合う力をつけるためにはどうしたらいいのでしょうか。私は、お互いを理解するためには、まず、あいさつをすることが必要だと考えました。ですが、ただあいさつをするのではなく、しっかりと目や顔を見てあいさつすることが重要だと思います。

私は、外国の方とあいさつをすることに不安や恐怖を感じましたが、お互いが笑顔であいさつを交わすことにより、お互いの気持ちが通じ合えたと感じ心がほっとしました。

この、相手と気持ちが通じ合うあいさつをし合うことで、お互いの理解や尊重につながるのではないのでしょうか。今回、このような経験を通して、無意識的にもつてしまった差別の目とあいさつの大切さに気づくことができました。世界中でも、人との付き合いは、あいさつで始まり、あいさつで終わります。この一つ一つのあいさつを適当にするのではなく、相手をよく見て、心を込めたあいさつをしようと思いました。さて、ここまで差別とあいさつについて話してきましたが、これをキッカケに皆様も心を込めたあいさつについて考えてみてはどうでしょうか。

進脩塾活動について

進脩塾創設三十周年に向けて



進脩塾主幹 田代敬二

今から遡ること三十年前、当初私たちが目指していた理想は、新しい国づくりであり、明るい豊かな街づくりにあります。この国づくり、街づくりをどう進めるべきかを追求していく中に、辿り着いたのが古典の書「大学」でありました。「大学」の中に国づくり（平天下）への道はつまるところ人づくりであること、人づくりとは即ち我づくりに他ならぬことが明快に示されていました。私たちは、迷うことなく、この学問を学ぶこととし、進脩塾を創設したのが平成二年十二月の事でありました。我づくりとは何かと言えば、我とわが身魂を徹底的に練成して、我を完成せしめることを究極の目的とするものです。この「大学」を基点として、「中庸」「論語」「孟子」

と我づくりの道を学んで参りましたが、果たして「我づくり」の実があげられたかに思いを致すとき、恥ずかしながら、一知半解の域を出なかつたと反省している次第です。

論語の中に、子曰はく「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」とあります。『大意』人様から学んで（習っただけで）それを自分の身に引き比べて充分考えないと習ったことが本当の我が物にならないから、やはり物の道理にも罔く、訳がわからぬようになりましょう。ところが自分一人で一生懸命考えても、先人の学問を学ばないと独断に陥るから、則ち殆しということ。何でも習ったことは繰り返し反芻して、自分で会得するまでやらないと物にならない。つまり我

づくりの糧にはならないといえましょう。

そこで、今日ここに原点に立ち返って学び直して見ることの意義がある訳です。徳望を磨く人間学講座（全十講）開講です。古くからの塾生各位にはもう一度学び直して頂き、新しく我づくりに挑戦して頂く各位には、単なる知識欲としてではなく、自らの人間形成の場としての講座として受け止められ、一灯照隅の心意気で、私たちの住むこの行田郷を、人々が心暖まる「仁厚の里」にまで育ててまいりたいものと念願するものです。

素読のすばらしさ



埼玉小学校 校長 佐藤 明彦

私は、今年四月に歴史と伝統のある埼玉小学校に着任いたしました。素直で可愛い子供たち、どんな協力も惜しまない保護者や地域の方々を支えられて、教職員と充実した日々を過ごさせていただいております。本校は、「さきたま火祭り」へ

の参加など、地域の特色を生かした教育活動も盛んです。そのような中で、本校では、「素読教室」をおこなっております。毎週、月曜日の朝の時間に「論語」や「漢詩」を子供たちが声を合わせて素読しています。忍郷友会の奥田様、川田様にお越しいただき、子供たちには少し難しい内容も丁寧に分かりやすく教えていただいております。子供たちが素読をしている様子を見ていると、皆が声を揃えながら一所懸命に声を出しています。その姿に見ている側も引き込まれてしまいます。この光景は、どこかで覚えがあるなと考えてみますと、よく時代劇で目にする寺子屋での勉強風景だと気がつきました。昔から、日本では子供たちが「論語」「漢詩」を学んできました。何度でも繰り返し声に出し、そのうちに何も見なくても誦んじてしまいます。暗記するということが脳を鍛えていたのと先人の教えから、人として大切なことを学んでいたのだと思います。

学校では、今年度から道徳が教科となり、より一層、その重要性が高まっていますが「論語」や「漢詩」の内容には、人が生きていく上で大切なことがたくさん詰まっているように思います。そのようなものを日々、耳にし、誦んじること、自

然に個々の道徳性が高まっていくのではないかと思います。また、人前で声をしっかりと出すことも、友達との素読の早さに自分を合わせることも大切なことです。自分の考えをはっきりと人前で言えたり、他人を思いやる温かい心も素読を通して身に付けさせたいことの一つです。

これからも、この素読を通して行田の未来を担う大切な子供たちが、よりすばらしい人間に成長してくれることを心から願っています。



忍藩子ども素読教室

中央小学校三年 岡 ましろ

そどくをならってから「ろんご」と「漢詩」をたくさん覚えることができましたので、うれしいです。

国語のじゅぎょうでも、心をこめて教科書を読めるようになりました。読書することが好きです。

岡 ましろさんの母 岡 律香

子供が小学校一年になった時、私の母のすすめで素読教室に申し込みました。当初、論語と漢詩は小さな子供には意味が分からない難しい言葉で不安に思いましたが、声に出して繰り返し読むことで次々と覚えられ、それは子供にとって大きな自信と達成感となつていると今は実感しています。指導してくださる先生も子供にわかりやすく丁寧に教えていただけるので、私も子供も信頼しております。

杉本 瑞希さんの母 杉本 聖美

我が子は小学校一年生から素読教室に通い始めております。初めて素読に触れた当時の開校式では、在校生のお兄さんお姉さん達が大きな声で朗々と漢詩・論語を発表しているのを聞いた時、こんなに難しい長い詩を立派に発表しているなんて凄い!! と思い、ひらがなが読めるだけの我が子が授業についていけるのか少し心配になりました。

小学校一年生が終わる頃、朗唱ま

つりに参加し、みらいホールで素読教室の皆さんと一緒に、朗々と発表している我が子の姿を見た時、開校式で感じた心配は払拭されました。

朗唱まつりの後本人に感想を聞いたところとても緊張したと言っておりましたが、小学生の低学年で大きな舞台に立つて発表する機会がないので、本人にとって自信になったと思います。授業の中で俳句や漢文等の銘文を紹介していただき、子供の時期にこれら銘文に触れ合う機会があることは、とてもよい環境だと思っております。付き添いで一緒に通っている私も授業を受けることができるので親子で見識が広がっております。

子供ならではの暗記の凄さに加え、小学校三年になり学校で習った漢字も増え、少しずつ内容の理解もできるようになり、先生がこう言っていたねと話をするようになりました。今は詩の意味が分からなくても、将来分かるようになるとおっしゃっていた先生のお言葉を昨今実感しております。これからも素読教室を通していろいろな事に興味を持ち、挑戦してゆく楽しさを培っていけるとよいと思います。

漢文検定や朗唱まつりの開催等、講師の先生方や事務局の皆様にも大変感謝しております。

朗唱まつり

忍藩子ども素読教室 小倉左江子

平成三十年二月十日(土)に教育文化センター「みらいホール」において、第二回朗唱まつりが開催されました。開演を知らせる木鐸の鐘の音で幕が開き、老本幼稚園園児の驚くほどの堂々とした論語・漢詩の朗唱から始まりました。



老本幼稚園園児の朗唱

忍藩子ども塾生が日頃の成果を自信たっぷりに、次々と披露した論語・漢詩。埼玉小学校の三年生、四年生主体による九十二名の朗唱は、会場一杯に響き渡る「三字経」の大朗唱は圧巻でした。

埼玉中一年生岩下友希さんによる、忍藩藩需芳川波山作「公、房総の戌

役の命を蒙り之を賦して窃かに其の拳を奉賀す」の長文漢詩朗唱は、後輩達に強く印象付け、会場全体に感動を与えた朗唱となりました。

そして、光明蔵の四時読書楽を会場全員による朗唱で終演となりました。



昨年度朗唱まつりより



埼玉小学校生徒の朗唱

アトラクションは、おもてなし甲冑隊の演舞、日本三大合戦の暴れ太鼓が披露されました。

素読を通して、古典を学び古典に親しむことを、広く市民社会への浸透を図る目的が表現された大会となりました。

尚、出場記念として三字経ファイナル作成、出場者全員に配布いたしました。

天眼寺親子素読教室に参加して 粕谷 悦昭

以前、天眼寺に所用のため訪問した折、門の脇に郷友会による論語、漢詩の素読教室が月一回開かれていた。掲示板がありました。

論語漢詩の素読がどのような事かは知っていましたが、本を読んで勉強する事はなかったです。そこで、一発発起受講することになりました。初めて参加した教室は小学生二名、母親が二名イギリス人一名男性四名と私の十名でした。この教室の雰囲気は多少緊張したスタートでした。

論語の「子曰く」から始まる文章の一語一語を先生による解説と繰り返し反復する素読によって自然に頭に入りました。家に帰り翌日には忘れてしまいましたが、次の授業に

は自然と思い出すことができ、反復する事の大切さを知った思いです。

漢詩は教本に載っている解説を読み返して、漢字と文脈で文章の意味や情景を感じ取る事で面白く思えるようになりました。

最近のテレビ放送では、英語、カタカナ表現が多用されて意味が解らないことが気になります。教本の最終ページに漢詩に「何を学ぶか」を取り上げた箇所があります、正に論語漢詩によってもたされた伝統文化を日常生活の中に取り入れて、年齢に関係なく前進しましょうと言うことだろうと思います。来年私は受

講三年目に入ります。新たな思いを模索している今日この頃です。



天眼寺素読教室の授業風景



人にやさしい

快適な環境づくりをめざして...

産業資材販売
給排水空調衛生設備工事
エクステリア・景観整備工事

株式会社 清水アーネット

読書推進運動について

読書推進実行委員長 須 郷 和 美

読書推進実行委員会 第十五回記念講演会は、平成三十年三月三日(土)ベルヴィアイトピアにおいて「語り部・かたりすと」として活躍している平野啓子先生を講師としてお迎えし、実演を交えながらの、語りと朗読と読み聞かせと題して講演をしていただきました。



熱く語る平野啓子先生

当日の来場者は、読み聞かせボランティアの方々、進修館高校校長先生と生徒さん達、語り部の会の方達、その他二百名を超える人達が、平野啓子先生の熱のこもった講演に聞きっていました。

朗読と語りと読み聞かせの違い等本当に実演を混じえながら説明して下さり大変参考になりました。

「古事記」に記された日本神話の語りには笑いを誘い、「蜘蛛の糸」の迫真の語りには会場全体がふるえる様な感動につつまれました。

この感動を次代を担う子供達に伝えて行く事が私達の大切な役割ではないかなと感じた講演でした。

第十六回 講演会は 九月八日(土)中央公民館 第一学習室にて「感動が心を育てる」と題して 講師に村上淳子先生をお迎えして開催されました。

先生は、文部科学省主催「読書活動フォーラム」講師として司書教諭の指導に当たり、「よみ聞かせ」



平野啓子先生の講演に耳を傾ける参加者

「ブックトーク」など読書普及のため沖縄から北海道まで全国各地で講演活動を行っている大変忙しい先生でしたが、忍郷友会 読書推進実行委員会 第一回講演会 そして第六回講演会と二度講師として講演して下さり大変好評でしたので、無理をお願いして来ていただきました。

三度目の講演も 先生の実際に実践された読み聞かせ体験からのお話で、子供達の反応や、感動が私達にも手に取る様に伝わって来ました。先生の自然に笑わせたり、泣かせたり 休みなしの九十分があつと云う間に過ぎました。

村上淳子先生の素晴らしい講演のお蔭で参加された沢山の方々から感

謝の言葉を頂きました。

これからも講演会を通じて、子供達の心に「読むこと、聞くこと、話すこと」の大切さがしみ込んで行くように努めていきたいと思ひます。



絵本を手に講演をする村上淳子先生



松平忠昌会長のあいさつ

「旧忍町信用組合店舗」の移築・改修・復原・活用

行田市教育委員会文化財保護課 課長 中島 洋一

平成三十年九月二十二日に、水城公園東側園地に移築・改修・復原された旧忍町信用組合店舗が、「Vert Cafe（ヴェールカフェ）」（ヴェールはフランス語で緑）の愛称でオープンしました。

建物の沿革

この旧忍町信用組合店舗は、市内の足袋事業者等が設立した同組合が、現在の行田市行田一三―三一の



移築・復原後の外観

地に、大正十一年（1922）に開設した下見板コニアル様式の木造二階建洋風銀行店舗です。

建物に残る棟札によると、建築主は忍町信用組合長時田啓左衛門以下九名、設計監督は吉澤清、請負人棟梁は細谷活平でした。開店後この店舗の運営は、組合専務理事の村上義之助が中心となり、その卓越した手腕で昭和初期の恐慌を乗り切り、地元庶民金融として業績を上げて行きました。

この店舗には、原料卸売商が足袋商店から受け取った手形や、足袋商店が全国各地の卸売業者や小売業者から受け取った手形など組合員の商取引の手形が多く持ち込まれ、その割引が行われました。

こうした足袋関連の企業間信用の決済業務を多く行うことで、忍町信用組合は、足袋産業の発展を金融面から支えて行ったのです。

しかしながら同組合は、戦後の金融混乱を乗り切るため、昭和二十二年に県内の他の八信用組合と統合し



移築・復原後1階内部

て、埼玉県信用組合（後の埼玉縣信用金庫）となりました。統合後この建物は、昭和三十二年まで埼玉縣信用金庫行田支店として使われていましたが、翌年に有限会社朝日亭に売却されました。

そしてその後は賃借不動産として、飯島経理事務所や北埼玉信用組合、新町自治会等に貸し出され、平成二十七年まで使われていました。

このようにこの建物は、名誉市民の村上義之助が運営に携わっていた行田の金融と足袋産業の歴史を伝える歴史的に貴重な建物であり、なおかつ市内では数少ない下見板コニアル様式の木造洋風建築であることから、平成二十八年十二月に行田市指定文化財に指定されました。そし



移築・復原後2階内部

て翌年には、行田市の日本遺産ストーリーの構成資産にも認定されています。

建物の保存と活用

文化財指定を契機にこの建物は、平成二十九年一月に有限会社朝日亭から行田市に寄付されました。

市では老朽化した建物を改修して保存するとともに、街なかの賑わい拠点として子育て世代が活躍するカフェ的施設に再活用を図ろうと考えました。そして国の地方創生拠点整備交付金等を活用（事業費の約七十五％が国の交付金等）し、学術調査研究と設計監理をものつくり大学に委託して、市民の憩いの場である水城公園の東側園地内に移築、開



移築・復原後1階内部2

店当初の美しい緑の姿に改修・復原しました。

また、併行してカフェ事業者を公募し、事業者に行田レインボーネットワーク（子育て中のママさん達を中心となつて設立された団体）を選定。建物の愛称とカフェの店名についても、公募した中から市内中学二年生の投票で「Vert Cafe（ヴェールカフェ）」に決定しました。

事業の意義と今後の展望

今回の「旧忍町信用組合店舗」の移築・改修・復原・活用は、地方創成の課題である雇用の創出、子育て支援、女性の活躍の場の創出、文化財の活用、観光振興を具現化し、地



移築前の旧忍町信用組合店舗

域の個性を活かしたまちづくりを推進する大変有意義な事業であると思われまふ。

開店したカフェでは、子育て中のママさん達がいきいきと働き、市民や来訪者の方々が次々に訪れて賑わっています。

カフェ営業以外にも夜にコンサートがおこなわれたりもしており、今後はこの店舗を、新たな文化の発信拠点としても活用して行きたいと考えております。

郷友会の会員の皆様のご理解、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

ちよつと一息 利根大堰周辺にコウノトリ飛来！



行田ナチュラリストネットワーク茂木幸蔵氏撮影

千葉県野田市では飼育しているコウくん、コウちゃんペアに生まれたコウノトリを平成二十七年より放鳥しています。昨年七月に利根大堰下流周辺に飛来し五十日間滞在し採餌していたのは二十八年放鳥のきずなぶ（二十八年三月二十六日生まれです。その後も時おり、姿を見せていましたが、今（十二月十三日）は竜ヶ崎市周辺にいるようです。今年はペアで来てくれるといいですね。

橋本 恭一

岐阜市の2城と舞鶴市観光

鈴木 秀 憲

九月二十八日

若い時には多用であった為に、現地へ直行しそこの移動にレンタカーを借用していたが、昨今では国内はなるべく自分の車で行くという事になっている。毎年の藩校サミットでは、開催地のお城を訪ねる事もサミット参加と同様の楽しみをもたらしてくれている。

舞鶴へ行く途中には、京都・滋賀・岐阜・愛知等にお城が沢山あるが、今回は往路で未だ訪ねていない墨俣城と大垣城へ寄る事にした。紙面の都合で詳細を省くが、墨俣城は木下藤吉郎の奇計によって信長の美濃攻めに大いに貢献した秀吉の出世城。大垣城は賤ヶ岳の戦いや関ヶ原の戦いで（直接戦場にはなっていないが）著名である。

朝八時半に家を出て午後二時半には犀川が長良川へ合流する地点に立つ墨俣城へ到着した。この城は木下藤吉郎が作った一夜城として知られている。

一五六〇年に今川義元を破り。



墨俣城

一五六二年には松平家康と清州同盟を結び東南方面から攻められる恐れがなくなると、織田信長は嫁（濃姫）の父斎藤道山を殺した道山の子義龍の子龍興の守る美濃攻めを行う。その折に木曾川・長良川を隔てた対岸に城を作れば戦略上有利になるとの判断から、この地（墨俣）に城を築く作戦を立てた。

しかし対岸は敵側の陣地内で築城に難儀をしていた。この時に藤吉郎

は手を挙げこの難事業に立ち向かい、予め材料を加工しておき、加工した用材を筏に組んで敵の油断している隙に上流から流し、現場でそれを受け止め三昼夜で組み上げ、城を作ったと言われている。実際には簡易な砦だったが、白壁の代わりに麻布を掛ける等大いに工夫をして、敵側からは立派な城が出現した様に見えたようだ。この功績で藤吉郎は信長から藤吉郎秀吉と名乗ることを許されたそうだ。時に一五六四年九月、秀吉二十七歳であった。

現在の建物は立派な城になって居るが、これは当時の墨俣町（現在は岐阜市に併合）がふるさと創生基金を活用して平成三年に大垣城の天守閣を模して作った物で、現在は資料館として使われている。

大垣城へは墨俣城から西へほぼ一直線の道で八km二十分程で着いた。

大垣城は十六世紀の初めころに築かれ、時代の流れに従って城主が変わっていたが、歴史物語に登場するのは一五八三年賤ヶ岳の戦いの発端である。信長の後継者争いで柴田勝家と対峙していた秀吉が、敢て柴田側に隙を見せ誘い出す為に、東から攻めて来る滝川一益を迎え撃つ振りをして長浜を空けてここ大垣に滞在していた。この時、柴田勝家の甥佐久間守政が血気に駆られて北近江の



大垣城

地へ侵攻してきた。好機到来である。秀吉はここ大垣から北近江を目指して夜間の強行軍を行い、油断していた佐久間軍が慌てて逃げる後へ襲い掛かり、賤ヶ岳の戦いの緒戦が始まる。所謂「大垣からの大返し」大垣から木ノ下迄の十三里半を七時間余りで移動し（時速七・七キロ）、この戦いに勝利した。

もう一つの物語は、この時から十七年後の一六〇〇年九月関ヶ原の戦いの時に大垣城が登場する。西軍の石田三成が、東軍が西上してくるのを阻むため大垣で待ち構えていると、いつの間にか東軍はここ大垣を避けて関ヶ原へ布陣してしまった。慌てた石田三成は関ヶ原へ取って返すことになる。この引き返すときに



赤レンガ博物館

関ヶ原の戦いの前哨戦としての「杭瀬川の戦い」が展開された。島左近の奇計により少人数で東軍方を打ち破ったのである。大垣城は主戦場となったのではないが、大戦のきつかけつくりの場と言えるかもしれない。大垣城を午後五時前に出て一路舞鶴へ。北陸道で北上し敦賀から舞鶴若狭自動車道経由で午後七時にホテルムーレタカタへチェックインした。

九月二十九日

藩校サミット舞鶴大会開催日だ。折あしく台風が日本列島へ直撃してくる。

私が出席する藩校会議は、十三時開会なので、午前中は観光に勤しんだ。舞鶴観光のポイントは三つある。

田辺城址・藩校明倫館を有する西舞鶴地区と軍港として発展した東舞鶴地区、そして岸壁の母で知られる引き揚げ桟橋がある平地区である。平地区は明日にして、まずは東舞鶴の赤レンガパークの「赤レンガ博物館」へ向かった。幸いな事に心配した雨はまだ降っていない。九時開館直後に入館したので、客は少ない。

博物館自体が、明治三十六年に建てられたもので勿論レンガ造りだが、旧式なレンガ造りではなく構造材は鉄骨で出来ており、壁面等に煉瓦が使われている。その為に煉瓦の歴史だけではなく、鉄骨やカーテンウォール式窓とガラス（共に輸入）の歴史にも触れていて、見応えがある。特に明治三十六年に（舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫として）建てられたという事は、日露戦争に備えて作られた事が伺える。現に展示解説によると明治期には横須賀・佐世保・呉と共に鎮守府が置かれていた（現在は旧軍港四市として日本遺産に認定されている）。しかも初代司令長官はあの東郷平八郎であったそうだ。否でも（否ではないが）司馬遼太郎の坂の上の雲が想起される。

時間の都合もあるので小一時間程で退出したが、半日は楽しめそうな場所だ。ここを出て近くの赤レンガ倉庫街へ行く。旧海軍の倉庫街（明



田辺城（舞鶴城）

治・大正期に建てられた十二棟）がずらっと並んで保存され、一部は会館や土産物売り場として活用されている。Cafeも有った。此処の会館で結婚式を挙げている方々に出会った。ハンブルグの倉庫群（世界最大・世界遺産）を見た事が思い出された。

他に自衛隊基地の見学もしたいところだが、時間がない。十時半に東舞鶴から車で十五分程の西舞鶴の田辺城（舞鶴城の事）址を目指す。

田辺城の歴史は、一五八〇年に細川藤孝が織田信長から丹後の国を与えられ、倅忠興と共に縄張りした事に始まり、その後完成した。関ヶ原の戦いの前哨戦で東軍に加担した藤孝は、石田三成方一万五千の大軍

に囲まれたが僅か五〇〇の兵で五十日間に亘り城を守った。この時藤孝（細川幽斎）は、「古今和歌集」秘事口伝の伝承者であった為、古今伝授の廃絶を憂慮した後陽成天皇の勅命でこの包囲網は解かれた。時に関ヶ原の決戦三日前であった。この戦いの功績で倅忠興は豊前中津に栄転となり、その後京極高知が入国。一六六八年に京極氏が但馬豊岡へ入府後に、牧野親成がこれに代わり版籍奉還迄田辺藩主として在城した。現在、城郭は無く、隅櫓を模した建物が田辺城資料館（観光ガイドさんが丁寧に説明してくれた）として活用されていた。尚、舞鶴の地名は明治二年の版籍奉還の時に紀伊田辺藩と混同し易いので田辺城の城号「舞



藩校明倫館の跡地

鶴」に因んで舞鶴藩としたとの事。

城のすぐ西側に市立明倫小学校があったが、藩校明倫館の跡地に建っていて正門は藩校当時の門そのもの（市指定有形登録文化財）が使われていた。塀も白壁に瓦屋根、下見は板張り。当時の雰囲気を感じさせていた。

十二時にホテルへ戻り、昼食と支度を整えて十三時からの藩校会議会場へと向かった。藩校会議には多くの藩が出席しており、今年も忍藩に事例発表の指定を頂いていたので、忍郷友会は公益財団法人である事と青少年育成事業を行っている事を発表し、川田隆生さんに進脩塾事業について発表して頂いた。藩校会議での発表は参加三十、四十藩の中の五藩程なので、発表は何年かに一度の筈なのだが、何故か忍藩は毎年ご指名頂いている。有難い事だ。

十四時からの藩校サミットについては、他の方の記述があるので私はこの辺で筆を置こう。

九月三十日

心配していた台風は、予測通り本日、日本列島を襲って来るようだ。多くの宿泊客は、午後からのJRの運休に対処するために、ホテルを早く出立しようだ。

私は車なので、予定通り八時半にホテルを出発し、ホテルから車で



平引揚浅橋

十五分程の平地区にある引き揚げ桟橋を訪ねた。私の叔父もその一人だったが、ロシアに抑留され帰国できた方々は終戦から二・三年或はそれ以上の期間をロシアの過酷な条件下で苦勞をされた事を今更ながらに思い出した。橋に「平引揚桟橋」とあるのが読めるだろうか。

扱、今日は次の（会議予定地へ向かう為）山形県の米沢まで行く。台風に追いかけるながらのドライブであったが、幸いにも風雨は殆どなく、若狭舞鶴自動車道・北陸自動車道を経て新潟へ入り、この先を日本海東北自動車道經由国道一一三号線で行くか、磐越自動車道・喜多方經由で行くか迷ったが、結局後者で米沢を目指し六七〇km走行して、十七時半頃に無事米沢へ到着した。

社会福祉施設

教育・文化施設

オフィス・工場

店舗・商業施設

耐震補強

建物リニューアル

技術と環境の未来を見つめて

小川工業株式会社

埼玉県行田市桜町1-5-16 TEL.048-554-4111



株式会社ファイブイズホーム

代表取締役社長

細井 保雄

時事川柳

小澤 誠邦

青リボン長い間に色がさめ

省庁が見本を示す罪深さ

晩成に挑む私は八十七

川柳



小澤 誠邦

遺言に後悔ばかり書いている

輝いた過去は伏せての仲間入り

行く当てがないのに結ぶ靴のヒモ

出る杭も見えない杭に支えられ

世の中に想定外が多すぎる

俳句



渡邊 栄一

水玉の蓮葉に遊ぶ雨上がり

遠雷に家路を急ぐランドセル

須郷 隆

馬の背を分けて夕立^{ゆだち}や地を叩く

夕映えの寺庭の紅葉朱に満ちて

小島 敏男

夕紅葉人影まばら古刹道

角界の邪気を払えよ鬼やらい

大野 年司

新社員緊張するも笑顔かな

さきたまに凧あげ競う童かな

安部 節子

湖畔の宿共に唄いし花吟行

柿たわわ荒れし庭にも季^きの恵み

折井 幸子

咲ききって満足そうに散るさくら

水荒く使いて盛夏しのぎけり

清水 孝男

ささやかに生きる喜び冬薔

藩校の名残の素読額の花

阿部秀二郎

茜舞う明治が匂う道後楼

霧深く木道の音忍び寄る

鈴木スイ子

風呂あがり肌に触れたる風は秋

新涼や慈母観音の白き指

倉持成一郎

酌み交わす酒の旨さよ秋の宵

八月の影が濃くなる蔵の街

遠藤 初枝

これほどに役に立つとは秋扇

人まばら釣瓶落としの城下町

三島 務

床の間に静かに立てし花菖蒲

松の芽の花咲く景色癒しあり

田代 敬二

ベランダはさわやかな風髪をそる

プランターのメロン実るや網目待つ

小山 博

十六夜の雲間に登る月青し

山百合の今年も生きて香を放つ



社員送迎バス
スクールバス

Kyodo Bus Group

コミュニティバス

観光旅行バス

株式会社 協同バス
TEL: 048-554-0808 (予約)
埼玉県行田市佐間1-20-36

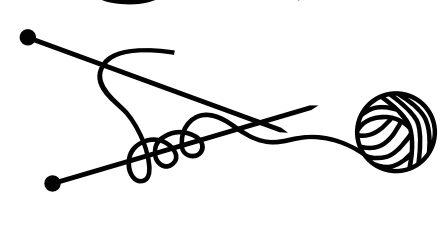
おかげさまで
創業 122 年
中山道が店内を通るデパート



八木橋 熊谷
〒360-8502 熊谷市仲町74番地
☎048-523-1111

八木橋 検索

FASHION CREATORS HOUSE
gim[®]
co.,ltd.



株式会社ジム
代表取締役会長
八木原 保

「地域共存」67年
税理士法人 **大久保会計**

所長 税理士 **大久保 毅**
副所長 税理士 **大久保 栄吾**
税理士 **大久保 秀彦**

〒361-0023 埼玉県行田市長野二丁目二五番三三号
埼玉県熊谷市津田一一八八番地

御名刺掲載欄

(順不同)

公益財団法人忍郷友会

会長

松平忠昌

〒214-0038 川崎市多摩区生田六一一五―三六
☎〇四四―九五五―九三三六

特別会員

白河藩阿部家二十二代当主

阿部正靖

〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一一〇九―八
電 話 〇四七五―二六―五五七九

株式会社ケイマス

代表取締役

黒 渕 陽 夫

〒365-0001 埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二二
TEL 〇四八―五六九―二二五
FAX 〇四八―五六九―二二二

公認会計士

奥貫健一

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三一―十五―四〇一

天眼寺住職

東 瑞 芳

〒110-0001 東京都台東区谷中一一―二―十四
電 話 〇三一三八―二一―七七七八

行田セレモニー

(株)ヨコカワ

代表取締役会長

横川福治

〒361-0073 埼玉県行田市行田一一―三三
電 話 〇四八―五五六―二二五六

弁護士法人 蔭山法律事務所

弁護士 蔭山好信

〒360-0041 埼玉県熊谷市宮町二丁目二八番地
未広不動産宮町ビル二階・三階
TEL 〇四八―五九九―一三〇〇

大野建設株式会社

代表取締役

大野年司

〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電 話 〇四八(五五三)〇一〇〇開山慶長十一年
水戸黄門様ご宿泊のお寺

曹洞宗 龍淵山祥雲寺

住 職 大西義道

〒300-0744 茨城県稲敷市押砂九三二
FAX 〇二九九(七九)〇〇六四
携 帯 〇九〇(八六四)四四三一

社会福祉法人財団若葉

若葉保育園

園長 保泉欣嗣

〒361-0073 埼玉県行田市行田十一―十
電話(〇四八)五五六―二七九七ITの困りごと解決します
ホットネット株式会社

代表取締役 小松和弘

〒361-0016 埼玉県行田市藤原町二―七―七
電 話 〇四八―五八〇―一三〇七七

ガクヤ株式会社

代表取締役社長

小池俊輔

〒361-0075 行田市向町十四―二十
☎〇四八―五五六―三二二一

小澤企画

各種相談・企画・コンサル

代 表 小澤誠邦

〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二―一
TEL(〇四八)五六四―一―一
FAX(〇四八)五五二―〇五八二医療法人 葦の会
石井クリニック
元氣いっぱい 笑顔いっぱい

理事長 石井義則

〒361-0037 埼玉県行田市大字下忍一〇八九―一
電 話 〇四八―五五五―三五一九

山本食品工業株式会社

代表取締役会長

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一
電 話 〇四八―五五九―二二二一

大岡産業株式会社

代表取締役

大澤 誠



〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三〇一
TEL 〇四八五五三一〇二八
FAX 〇四八五五三一〇二八
携帯 〇九〇一六〇二六六〇
http://www.okasanyo.com/

渡辺株式会社

取締役会長

渡邊 栄一

〒361-0073 行田市行田一四
電話 〇四八五五六一八九六八
FAX 〇四八五五六一二八八
携帯 〇九〇一七七一九一三五五

曹洞宗 松雲山 長光寺

住職 福島 伸悦

(連絡先)
〒361-0073 埼玉県行田市下中条二六一九
電話 〇四八五五七一〇九九二
FAX 〇四八五五七一〇九九二
E-Mail kotokuji@muc.biglobe.ne.jp
http://chokoji.or.jp

合資会社 青美矢沢商店

代表社員

矢澤 大和

〒361-0073 埼玉県行田市行田二二二二五
TEL 〇四八五五六一三三三三
FAX 〇四八五五六一三三三三

山本商事株式会社

東京海上日動火災保険株式会社(代理店)
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

取締役会長

山本 憲作

〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇四三
TEL 〇四八五五五二二二一
FAX 〇四八五五五二二二一
e-mail: info@hoken-yamamoto.co.jp

羽生モータースクール

代表取締役

五十幡 和彦

〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇
TEL 〇四八五六一一三〇〇八
FAX 〇四八五六一一一五四七
http://www.motorschool.co.jp
E-mail: hanyu@motorschool.co.jp

会長

飯田 芳幸

Emborick
NETWORK SERVICE PROVIDER
SAKITAMA-INTERNET

〒361-0062 株式会社エンボリック
http://www.emborick.co.jp
yoshit@sakitama.or.jp
またインターネット
http://www.sakitama.or.jp

株式会社 リノン

代表取締役 新井 啓介

〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五
TEL 〇四八五五五五五五五
FAX 〇四八五五五五五五五
携帯 〇九〇一三三三三三三三
http://www.linon.co.jp E-mail: ara@linon.co.jp

有限会社 高戸 環衛

埼玉県知事登録番号 第515105号
貯 第7973号

代表取締役

戸ヶ崎 直司

〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三十一一二六
電話 〇四八五五五五五五五
FAX 〇四八五五五五五五五

小山商事株式会社

代表取締役 小山 喜一郎

〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三三五一
TEL 〇四八五五五五五五五
FAX 〇四八五五五五五五五

小山商事株式会社

取締役会長 小山 博

〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三三五一
TEL 〇四八五五五五五五五
FAX 〇四八五五五五五五五

作業服ならお任せ下さい

株式会社武蔵野ユニフォーム

代表取締役 小松 和弘

〒361-0016 埼玉県行田市藤原町二一七七一
電話 〇四八五五五五五五五

全国PHP友の会

特任顧問

加藤 力也



〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三二二一九
TEL 〇四八七七七一五八五
E-mail: show-katou@com.home.ne.jp

根岸友山・武香ミュージアム

根岸 友憲

〒369-0104 埼玉県熊谷市青山一五二番地
電話 〇四九三三三九一〇〇〇六

(株)味工房 那のつ

代表取締役

阿部 秀二郎

〒361-0023 埼玉県行田市長野一三三三一一〇
電話 〇四八五五五五一一四五〇

創業 文久二年 伝統の味

割烹 魚 豊

橋本 恭一

TEL 〇四八五五五三三三三
FAX 〇四八五五五三三三三

株式会社倉持商店
紺織製品製造本舗・力王たび代理店

代表取締役

倉持成一郎



〒361-0022 埼玉県行田市桜町一丁目一四
TEL(〇四八)五五六一九一四
FAX(〇四八)五五三二二八三

《昭和14年創業》
各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理
有限会社 小笠原ラヂエーター工業所

代表取締役

中川邦明

〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一四三二番地
TEL(〇四八)五二一三三九五(代)
FAX(〇四八)五二一三三八四
自宅TEL(〇四八)五五三〇二七八

株式会社 セティアコーポレーション

代表取締役

岩崎安裕

〒323-0028 栃木県小山市若木町二一十一五
TEL(〇二八五)二三八八三三(代)
FAX(〇二八五)二一三三五七七

株式会社 スマートプラン

東京海上日動火災保険株式会社(代理店)
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

代表取締役 田島博夫

〒361-0073 埼玉県行田市行田五一〇 スリーハートビル2F
TEL(〇四八)五六四一三二二二
FAX(〇四八)五六四一三二二二

株式会社 イシワタ

・一級管工事士の店・給排水衛生設備・建築リフォーム・LPガス
上尾・楠川・北本・加須・羽生・鴻巣・行田・熊谷・深谷指定上下水道工事店

会長 石渡健司

本店 〒361-0093 埼玉県鴻巣市北根一六四三
TEL(〇四八)五六九一〇六一三
FAX(〇四八)五六九一〇六一一
行田店 〒361-0048 埼玉県行田市行田一五六一
TEL(〇四八)五五八一五一一五
携帯(〇九〇)三二〇〇一九七三二

有限会社 瀬山農具製作所

代表取締役

瀬山文孝

携帯:〇九〇・三〇八四一五〇五六
E-mail:seyama@seyama-nougaku.jp
〒361-0012 埼玉県行田市下須戸九六七
TEL(〇四八)五五九一三三七三
FAX(〇四八)五五九一三二四〇〇
http://www.seyama-nougaku.jp

川野健人事務所

司法書士・土地家屋調査士

川野健人

〒361-0077 埼玉県行田市市忍二一十四一二十二
TEL(〇四八)五五二一〇一一五二
FAX(〇四八)五五二一〇一一五三

有限会社 長谷川工業

長谷川雅敏

〒361-0022 埼玉県行田市市桜町三十九一七

ファッションサロン チューオー

代表取締役

川辺秀夫

〒361-0073 本部・サンピオ店
埼玉県行田市行田十三一
〒361-0073 行田店
埼玉県行田市行田十三一六

株式会社 メンズオータニ

代表取締役社長

大谷文孝

〒361-0023 埼玉県行田市長野四一
TEL(〇四八)五五九一八四一
FAX(〇四八)五五九一八四四

株式会社 武蔵野物流

代表取締役

丑久保紀美

〒361-0013 埼玉県行田市真名板二〇五二一
TEL(〇四八)五五九一三三四
FAX(〇四八)五五九一三二九

株式会社 碓井測研

境界査定・測量・登記・設計・開発
不動産取引(埼玉県知事(5)17044)

碓井勝也

〒361-0026 埼玉県行田市大字野七九八一
TEL(〇四八)五五九一四二一一
FAX(〇四八)五五九一四二五〇
携帯(〇九〇)三二一九一四七六四
E-mail:usui@sakitama.or.jp

株式会社 シンセイ開発

代表取締役

新井 誠

〒361-0056 埼玉県行田市持田二一四一三十七
TEL(〇四八)五五五一一二二三三
FAX(〇四八)五五五一一三七八

株式会社 村賀商店

代表取締役

村賀英介

〒361-0076 埼玉県行田市天満三二二十四
TEL(〇四八)五五四一三二四〇
FAX(〇四八)五五四一三二四〇
E-mail:muraga@ivg.ne.jp

三共印刷株式会社

代表取締役 大谷純一

埼玉県行田市富士見町二一三〇
TEL(〇四八)五五六一六二〇一

事務局就業のご案内

(公財) 忍郷友会事務局の就業日は、
平成29年1月より、火曜日・金曜日
となっております。就業時間につい
ては、従来通り10時～16時までです。

行田市の現勢

平成三十年十二月一日

1 市役所所在地

〒三六一―八六〇一

埼玉県行田市本丸二番五号

TEL〇四八―五五六―一一一

FAX〇四八―五五六―一七六六

2 市制施行

昭和二十四年五月三日

3 面積

八一、四九六人(平成三十年十一月)

4 人口

三四、六五四世帯(平成三十年十一月)

5 世帯数

二五三、一億円

6 財政

7 市の機構

市長 工藤 正司

8 教育委員会

副市長 川島 将史

9 議会

議長 小林 友明

10 学校

副議長 新井 教弘

11 都市宣言

大学 一校

専門学校 一校

高等学校 一校

中学校 八校

小学校 十六校

環境衛生都市宣言

人権尊重都市宣言

平和都市宣言

青色申告の都市宣言

交通安全都市宣言

暴走族追放都市宣言

12 まちづくりの目標

水と緑 個性あふれる文化都市

13 産業経済

製造品出荷額 二、六九六億円

(平成二十六年)

商品販売額 一、五一五億円

(平成二十六年)

農業粗生産額 四十八億円

(平成十八年)

商店数 六六四店舗

(平成二十六年)

工業事業所数 二〇五事業所

(四人以上・平成二十六年)

さきたま史跡の博物館

教育文化センター

郷土博物館 忍城御三階櫓

産業文化会館・はにわの館

総合体育館・市民プール

総合公園野球場

公民館(十七館)・図書館

古代蓮会館・総合福祉会館

商工センター

風土記の丘さきたま古墳公園

忍城址公園

古代蓮の里公園

行田市郷土博物館

利根大堰

水城公園

東照宮

行田八幡神社

前玉神社

足袋蔵

石田堤

わらべ人形通り

編集後記

十年前より行田市では毎年、川の国埼玉整備事業が旧忍川から忍川・酒巻導水路周辺にかけて実施されてきました。治水利水、ポタリングによる回遊性の向上、遊歩道による健康増進、さくら並木の整備、行田らしい風景と自然環境の保全など官民一体となって検討され、バランスのとれた整備が行われていると思います。いよいよ鴻巣市境から熊谷市境まで遊歩道・ポタリングコースが今年度中に完成予定です。歩きながら、又は自転車であたりとした視線で行田の魅力を再発見してみませんか。

会報委員会委員長 橋本 恭一

発行者 公益財団法人 忍郷友会 会長 松平忠昌
事務局 〒三六一―〇〇七三
埼玉県行田市行田五一〇
(十万石スリーハートビル3F)

TEL 〇四八―五五六―九〇〇〇
FAX 〇四八―五五六―九〇〇七
URL/ www.oshi-goyukai.or.jp
e-mail/ gyouda@oshi-goyukai.or.jp

印刷 三共印刷株式会社
〒三六一―〇〇二一
埼玉県行田市富士見町二―一三〇
TEL 〇四八―五五六―六二〇一
FAX 〇四八―五五六―六二〇四

